

平成 25 年度 老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を
継続するための要因に関する調査研究事業

平成 26 年 3 月

公益社団法人全国老人保健施設協会

はじめに

私ども公益社団法人全国老人保健施設協会（以下、全老健）は、国民の皆さまから信頼され、必要とされる施設となるべく、協会設立以来たゆまぬ努力を重ねてまいりました。ただ、この「信頼される」、「必要とされる」という抽象概念を、介護老人保健施設（以下、老健施設）において具体的な像に落とし込むためには、自分たちの「思い」だけでなく、科学的・客観的な事実に基づく検証が必要となります。そこで私ども全老健はこれまで、さまざまな調査研究事業を実施してまいりました。そして、そこで得た知見を整理し、「求められる老健施設像」を追求してきました。老健施設制度創設から 20 余年を経過し、このような取り組みを地道に続けてきた結果、国民の私どもに対する信頼は相応のものとなったと自負しています。

しかしながら、わが国の少子高齢化はかつての将来予測どおりに進展し、さらに数年前からは「人口減少社会」という特徴も加わることで、現行の「社会保険」を基礎とする社会保障制度の持続可能性が懸念されるようになってきました。

国は、「地域包括ケアシステム」構想を打ち出し、住み慣れた地域で完結できる医療・介護のシステムの実現を目指しています。私ども老健施設は、従来より、「包括的ケアサービス施設」「リハビリテーション施設」「在宅復帰施設」「在宅生活支援施設」「地域に根ざした施設」であることを、理念と役割（機能）として掲げてまいりました。これはまさしく「地域包括ケアシステム」の必要十分条件といえ、その実現のために、私どもにはさらなる研鑽が求められるものと考えます。

そこで平成 25 年度の調査研究事業では、老健施設機能の見直し・検証と、「高齢者の多死時代」を迎えるにあたって避けては通れない「地域での看取り」の一部としての老健施設の看取り、さらには、施設入所と在宅療養をシームレスに結びつけるための課題の整理に取り組むことといたしました。「地域における介護老人保健施設の役割に関する調査研究事業」、「介護老人保健施設の管理医師の有効活用による医療と介護の連携の促進に関する調査研究事業」、「施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための要因に関する調査研究事業」がその調査研究事業です。

今回の調査研究事業の結果を真摯に検証し、さらに「必要とされ」、「信頼される」老健施設の実現を目指したいと考えておりますので、関係各位からの忌憚ないご意見を拝聴できれば幸いです。

平成 26 年 3 月
公益社団法人全国老人保健施設協会
会 長 木 川 田 典 彌

< 目 次 >

第1章 研究の概要	1
1. 調査の背景と目的	1
2. 調査の種類	2
(1) 退所者生活機能調査票	2
(2) 居宅介護支援専門員調査票	2
3. 調査対象と回収状況	2
(1) 調査対象	2
(2) 回収状況	2
4. 調査の流れ図	3
5. 事業班員一覧	5
第2章 調査結果概要	6
1. 調査結果のまとめ	6
2. 退所者生活機能調査	8
(1) 退所者の属性（第4回調査時点（退所後1ヵ月））	8
(2) 入所していた施設	10
(3) 第1回調査から第4回調査までのICFステージング平均スコアの推移	11
(4) 要約指標による利用者の状態の変化分析	12
(5) 各調査間における項目ごとのスコアの変化	24
3. 居宅介護支援専門員調査の概要	28
(1) 調査結果概要	28
(2) 現在使用しているアセスメント手法	28
(3) R4システムの認知度	29
(4) ICFステージングを参考としたケアマネジメントについての評価	30
(5) 従来方法と比較したICFステージングを使用することによる変化	32
第3章 単純集計表	33
1. 退所者生活機能調査	33
2. 日常関連動作（IADL）調査	39
3. 居宅介護支援専門員調査	42
資料編	47
資料1. アンケート調査実施要綱	
資料2. アンケート調査票	

第1章 研究の概要

1. 調査の背景と目的

体が弱ったり、介護が必要となった場合にも、在宅での生活を希望する高齢者は多い¹。介護老人保健施設（以下、老健施設）にとっても、入所者の在宅復帰支援と、その後の在宅生活支援は、重要な役割の一つであるが、在宅復帰・在宅生活支援の機能を併せ持つ、いわゆる「在宅強化型老健」²の要件を満たすのは、全体の5.5%に過ぎない³。

また、在宅復帰ができない原因として、①在宅復帰希望者が少ない、②利用者の重度化など利用者側の理由、③施設管理者が在宅復帰に熱心でないという施設側の要件、さらには④良好なケアマネジメントができていないということが過年度調査⁴で明らかになっている。すなわち、「在宅復帰を目指すケアマネジメント」においては、単に施設内において利用者の機能回復を図るリハビリテーションの内容を盛り込むだけでは不十分であり、在宅生活に戻った後も、社会参加を含めたその生活機能を維持するために、居宅の介護支援専門員と連携し、ケアプランを作成することが必要であると考えられた。

一方、国では、地域包括支援センターを中心として、地域ケア会議における個別ケースの支援内容検討にあたり、地域包括支援ネットワークの構築や、自立支援に資するケアマネジメントの支援などの実施により、個別課題の解決機能、ネットワーク構築機能の強化を図ろうとしているが、特に居宅復帰困難事例、支援困難事例など対応の難しいケースについての議論にあたっては、関係職種間の連携促進、共通の情報基盤の構築が急務である。

そこで、本調査研究事業においては、

①在宅復帰を目指す老健施設利用者において、在宅復帰後も良好な居宅生活が維持できるよう、入所中から利用者の状態や、望ましいサービス利用形態などを、居宅の介護支援専門員と連携する方策を検討すること

及び

②在宅復帰後の一定期間、老健施設入所中と共通の状態評価手法を用いたうえでケアマネジメントを行うことにより、在宅生活開始後の状態の変化を観察するとともに、退所時におけるケアの目標をより具体的に、かつ在宅維持が可能な目標とすることで、居宅ケアプランの質の向上につなげること

の2つの目的のため、アンケート調査を中心とした事業を実施する。

なお、本事業の実施にあたっては、上記2つの目的を達成すべく、公益社団法人全国老人保健施設協会（以下、全老健）は一般社団法人日本介護支援専門員協会との連携・協力のもとに調査を実施した。

¹ 内閣府、高齢者の健康に関する意識調査（平成19年）、同調査は全国の60歳以上の男女を対象としている。

² 在宅復帰率・ベッド回転率の実績に応じて、介護保険施設サービス費（I）（ii）または（iv）（ユニット型含む）を算定している施設を指す

³ 株式会社三菱総合研究所、介護老人保健施設等の在宅療養支援及び医療提供のあり方に関する報告書、p9、平成25年3月

⁴ 公益社団法人 全国老人保健施設協会、介護老人保健施設における在宅復帰・在宅療養支援を支える医療のあり方に関する調査研究事業、平成25年3月

2. 調査の種類

本事業では、下記に示す2種類の調査票を使用し、調査を実施した。

また、今年度の老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）の追加交付を受けて実施する調査研究事業において共通して使用する「[01]老健施設の役割施設調査票」の結果の一部も、本事業において実施するアンケート調査結果の集計時に使用している。

なお、念のため次ページに下記（1）及び（2）の実施フロー図を示す。

（1）[03-1]退所者生活機能調査票

退所者生活機能調査には、ICF ステージングによる生活機能の調査及び日常関連動作（IADL）調査の2種類が含まれる。

ICF ステージングによる生活機能の調査については、一人の対象者（退所者）につき、全4回の調査を実施した。

第1回及び第2回調査は、老健施設の介護支援専門員が記入し、第1回は老健施設への入所時の記録を参照し調査票に転写、第2回は退所時（退所前）の状況につき、アセスメントの結果を記入した。また、第3回及び第4回調査は、居宅介護支援専門員が記入し、第3回は老健施設から退所後1週間以内に、第4回は退所後1カ月程度のちに、アセスメントの結果を記入したものである。

さらに、補足的なデータ収集のための日常関連動作（IADL）調査は、第3回及び第4回調査にあわせて実施した。

（2）[03-2]居宅介護支援専門員調査票

居宅介護支援専門員調査は、上記の[03-1]退所者生活機能調査において、ICF ステージングを実施した感想等を記入したものであり、第4回調査終了後に、居宅介護支援専門員が自ら記入したものである。

3. 調査対象と回収状況

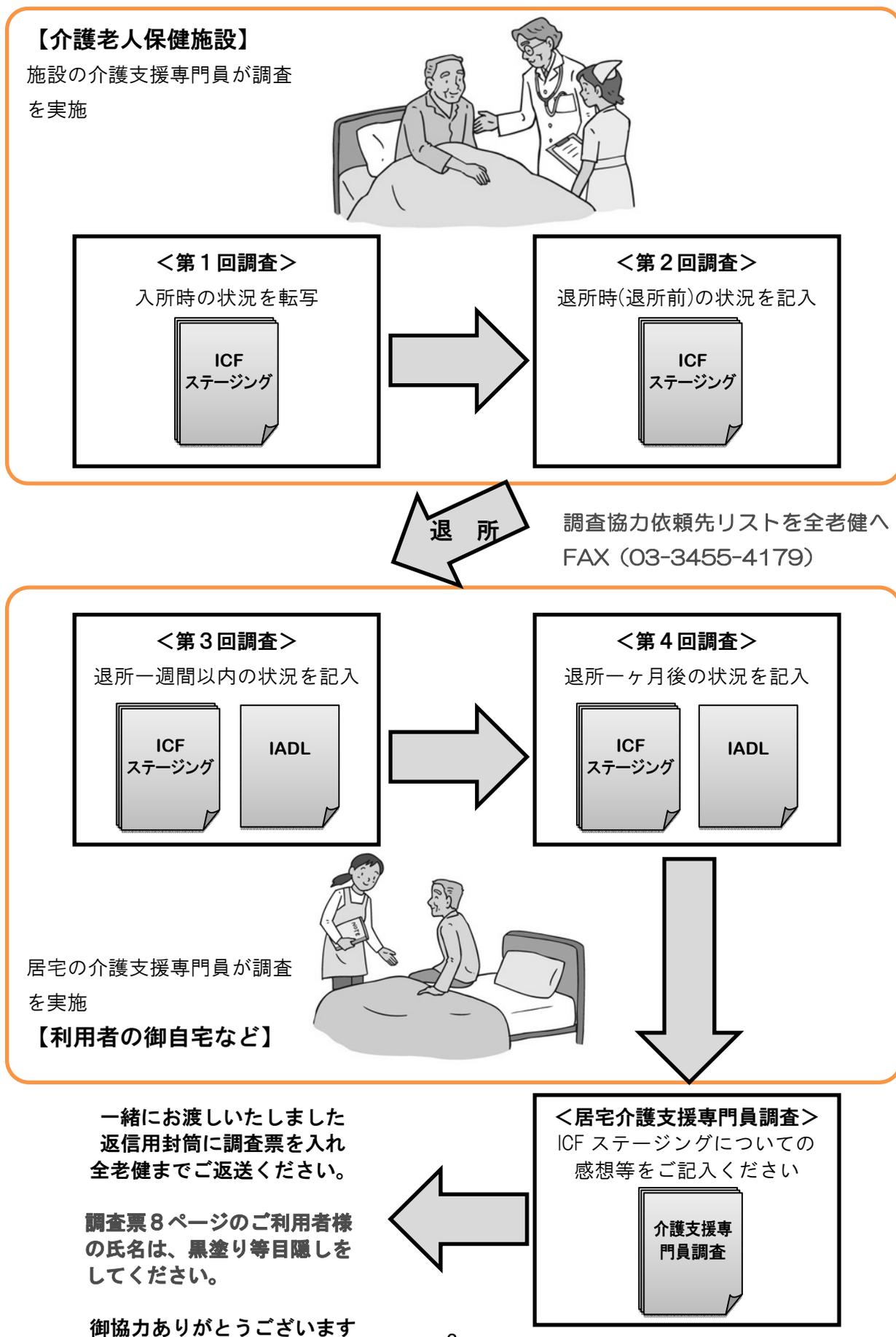
（1）調査対象

新全老健版ケアマネジメント方式～R4 システム～を導入している老健施設及びICF ステージングにおいてA-3シートを利用している施設（全国で全168施設）に対し調査を依頼し、当該施設を平成25年12月から平成26年1月に退所された方全員（141名）を対象とし、調査を依頼した。

（2）回収状況

上記のとおり141名を対象としたが、回収できたのは124票である（回収率87.9%）。

4. 調査の流れ図



5. 事業班員 一覧

(※敬称略、 五十音順、 ◎は班長)

名 前	所 属
安藤 繁	公益社団法人全国老人保健施設協会 管理運営委員会ケアマネジメント部会 部会員 (介護老人保健施設若宮苑 副施設長)
大河内 二郎	公益社団法人全国老人保健施設協会 管理運営委員会ケアマネジメント部会 部会員 (介護老人保健施設竜間之郷 施設長)
折茂 賢一郎	公益社団法人全国老人保健施設協会 管理運営委員会ケアマネジメント部会 部会長 (中之条町介護老人保健施設「六合つつじ荘」 常務理事)
助川 未枝保	一般社団法人日本介護支援専門員協会 常任理事 (株式会社千葉福祉総合研究所 代表取締役)
鷺見 よしみ	一般社団法人日本介護支援専門員協会 会長 (医療法人聖仁会オーク介護支援センター 施設長・理事)
田宮 菜奈子	筑波大学 医学医療系ヘルスサービスリサーチ研究室 教授
千葉 喜弘	公益社団法人全国老人保健施設協会 管理運営委員会ケアマネジメント部会 部会員 (介護老人保健施設ひもろぎの園 グループ統括部長)
原田 重樹	一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長 (社会福祉法人青山里会 常磐在宅介護サービスセンター センター長)
◎ 東 憲太郎	公益社団法人全国老人保健施設協会 副会長 (介護老人保健施設いこいの森 理事長)
本間 達也	公益社団法人全国老人保健施設協会 常務理事 管理運営委員会 委員長 (介護老人保健施設生愛会ナーシングケアセンター 理事長)
水上 直彦	一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長 (社会福祉法人清祥会 こすもす 常任理事 副施設長)
森山 由香	一般社団法人日本介護支援専門員協会 前常任理事 (介護老人保健施設ひうな荘 リハビリ部長)

第2章 調査結果概要

1. 調査結果のまとめ

本調査では、1ページに示したとおり、大きく2つの目的を有している。

一つ目の目的は、在宅復帰後も良好な居宅生活が維持できるよう、老健施設入所中から利用者の状態や、望ましいサービス利用形態などを、在宅復帰後の要介護者のケアの中心となる居宅の介護支援専門員と連携する方策の検討である。

これについては、本調査の設計として、まず第1回及び第2回調査を老健施設において行い、この結果が記録された調査票を居宅の介護支援専門員に渡し、第3回及び第4回調査を実施した。また、第1回から第4回までの調査を通じ、「ICF ステージングによる生活機能」という同じアセスメントの方法で調査を実施した。これにより、居宅の介護支援専門員が、老健施設入所中の状況を、また退所直前の状況を、自らが第3回調査以降で実施するアセスメントの手法と同じ内容で把握することが可能となった。

結果として、居宅介護支援専門員調査側の結果をみると、「在宅におけるICFを参考としたケアマネジメント」をすることについての評価は高く、また、ICF ステージングを使用することによる変化として「能力が把握しやすくなった」との回答が、6割以上の居宅介護支援専門員から寄せられた。

普段、居宅介護支援専門員はさまざまなアセスメントの手法を用い利用者のケアマネジメントを実施しているが、老健施設との間に共通の評価軸を持つことに関し、肯定的に捉えている方が多くいることが把握された。

本調査の二つ目の目的は、利用者が在宅復帰後も、老健施設入所中と共通の状態評価手法を用いたうえでケアマネジメントを行うことにより、利用者の状態の変化を観察するとともに、退所時におけるケアの目標をより具体的に、かつ在宅生活維持が可能な目標とすることにより、居宅ケアプランの質の向上につなげることにある。

これについては、ICF ステージングによる身体及び認知の生活機能に加え、周辺症状の変化を分析した5つの「要約指標」の平均値の推移を把握することにより、状態の変化の把握が可能となった。「移動及びADL」、「食事及びセルフケア」「認知機能」の3つの指標については、施設入所中はいずれも平均値が改善傾向にあるのに対し、在宅復帰後は徐々に数値が悪化している。また「周辺症状」は、施設入所中に改善するも、在宅復帰後一時的に悪化し、以後時間の経過とともに改善している。すなわち、環境の変化により一時的に各種状態が悪化するものの、時間の経過とともに改善傾向となっていることがわかる。さらに、「社会参加」については、施設入所中に数値が増加し、さらに在宅復帰後もわずかながら数値が増加(改善)していることが把握された。

このように、本調査研究事業においては、当初設定した目的をおおむね達成したものとする。しかし、調査を実施する期間が十分でなかったため、調査サンプルの確保及び状態の変化の把握にかけられる時間が短く、非常に有意義なデータを把握できたものの、より長期間、また多くのサンプルを対象に調査を実施することにより、在宅復帰という大きな環境変化が利用者にも与える

影響や、在宅復帰後一定期間の状態の変化等の把握を、より詳細に実施していくべきであると考ええる。さらに、本調査の補足的な位置付けで実施した居宅介護支援専門員宛の日常関連動作（IADL）調査（単純集計を p.39 に収録）で得られたデータは、今後の各アセスメント指標検証のための基礎資料となることが期待できる。

なお、本調査研究事業は、施設入所時から在宅生活期において同一のアセスメント手法を用いて利用者の評価を行っていること、同一人物を対象とした追跡データを収集していること、さらには公益社団法人全国老人保健施設協会と一般社団法人日本介護支援専門員協会との連携・協力のうで成り立っている事業であるという、他に類を見ない特徴を有したものであることを、本調査結果のまとめとして付しておきたい。

2. [03-1]退所者生活機能調査

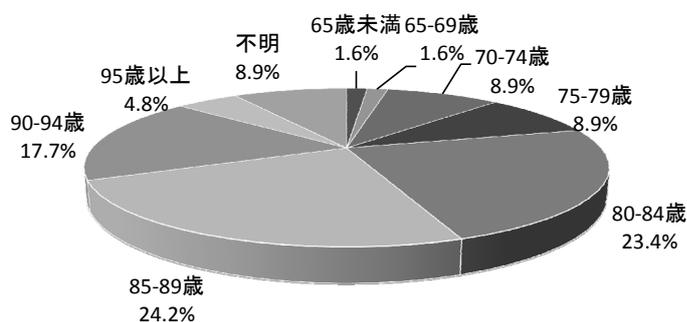
以下に退所者生活機能調査の結果概要を示す。調査票の回収数（集計対象数）は124票である。

（1）退所者の属性（第4回調査時点（退所後1ヵ月））

①年齢

退所者の属性として、まず年齢階層分布をみると、85～89歳の占める割合が最も高く24.2%であり、次いで80～84歳（23.4%）、90～94歳（17.7%）、70～74歳及び75～79歳（ともに8.9%）の順となっている（図表2-1）。

図表2-1. 退所者の年齢階層（n=124）

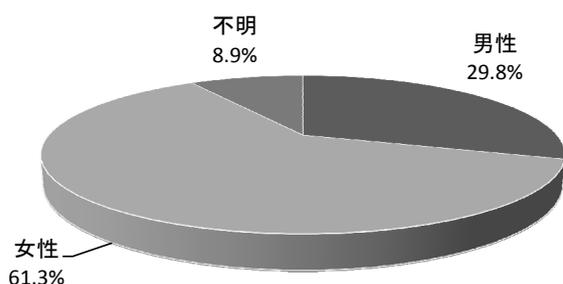


※集計時点で把握できていないものを「不明」として扱った

②性別

次いで性別をみると、男性が29.8%、女性が61.3%となっている（図表2-2）。

図表2-2. 退所者の性別（n=124）



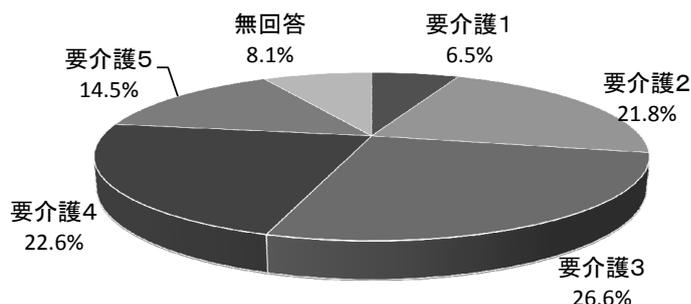
※集計時点で把握できていないものを「不明」として扱った

③要介護度等

さらに、要介護度の分布をみると、要介護3の占める割合が最も多く26.6%であり、次いで要介護4(22.6%)、要介護2(21.8%)、要介護5(14.5%)、要介護1(6.5%)の順となっている(図表2-3)。

また、退所者の認知症自立度と障害自立度の分布状況をみたものが、図表2-4及び図表2-5である。

図表2-3. 退所者の要介護度(第4回調査時点(退所後1ヵ月)、n=124)



図表2-4. 退所者の認知症自立度と障害自立度の分布状況(第4回調査時点(退所後1ヵ月)、n=124)

	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	無回答	総計
正常	1					4	1	1		7
I			5	7	6	5		1		24
II a	1		9	4		5				19
II b		1	3	11	6	6	1	1		29
III a	1		1	7	5	7	1	2		24
III b				1	1	2		1		5
IV				1		2		1		4
M				1		1				2
無回答									10	10
総計	3	1	18	32	18	32	3	7	10	124

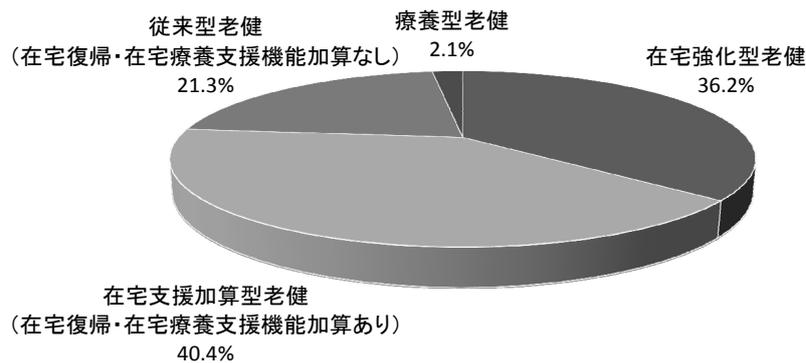
図表2-5. 退所者の要介護度と障害自立度の分布状況(第4回調査時点(退所後1ヵ月)、n=124)

	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	無回答	総計
要介護1			4	4						8
要介護2	1	1	8	12	2	3				27
要介護3	2		4	11	8	7		1		33
要介護4			2	3	7	12	3	1		28
要介護5				2	1	10		5		18
無回答									10	10
総計	3	1	18	32	18	32	3	7	10	124

(2) 入所していた施設

退所者 124 人が入所していた老健施設の数 は 47 であった。これを、在宅復帰率の度合いを示す施設類型及び加算により分類したところ、全体の 36.2% (17 施設) が在宅強化型老健 (在宅復帰率 50%超) であった。また、「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」を算定している施設 (在宅復帰率 30%超 : 以下、在宅支援加算型老健) が 40.4% (19 施設)、算定していない施設 (以下、従来型老健) が 21.3% (10 施設) であった (図表 2-6)。

図表 2-6. 施設種類 (n=47)



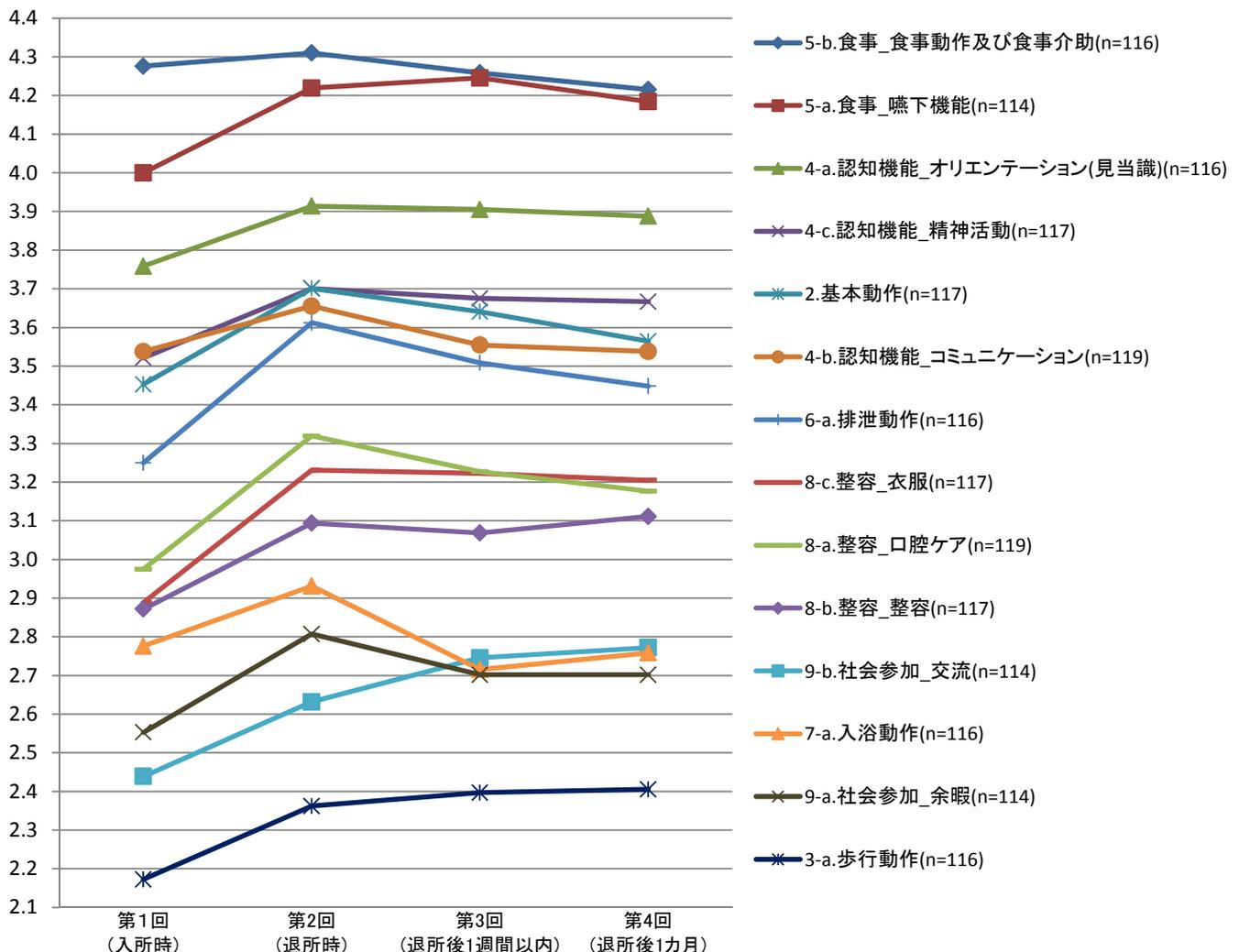
(3) 第1回調査から第4回調査までのICFステージング平均スコアの推移

ICFステージングによる退所者のアセスメントについて、5段階評価で把握できる13項目につき、第1回調査（入所時）から第4回調査（退所後1ヵ月）までの推移を、退所者の平均スコアにより把握した。

図表2-7は13項目すべてを一つのグラフにまとめたものであり、第4回調査時点の平均スコアが高い順にグラフを描写している。傾向をみると、3-a.歩行動作（図中一番下）、9-b.社会参加_交流（下から4つ目）については、第1回調査から連続してスコアは上昇（改善）傾向となっているが、7-a.入浴動作（下から3つ目）や8-b.整容_整容（下から5つ目）など、退所後一度スコアが低下（悪化）し、居宅での期間がある程度過ぎると再び上昇するもの、5-b.食事_食事動作（一番上）、6-a.排泄動作（上から7つ目）、8-a.整容_口腔ケア（下から6つ目）など、退所後スコアが低下（悪化）し続けるものもあるなど、項目によりその推移はさまざまである。

なお、各項目の具体的なスコアについては、単純集計表を参照されたい。

図表2-7. ICFステージング13項目の第1回から第4回にかけての平均スコア



(4) 要約指標による利用者の状態の変化分析

(3) では、ICF ステージングの各スコアの推移をみたが、図表 2-7 のとおり項目により各回における変化の推移はさまざまであり、傾向をつかむことが難しい。そこで、第 1 回から第 4 回までのそれぞれの段階における利用者の状態の変化を、より把握しやすくする目的で、別途実施された研究事業⁵において作成された 5 つの要約指標を用い分析を行った。

なお要約指標は、同研究事業において、1 年間の変化の追跡が可能な 3,762 名をサンプルとし、ICF ステージングの 14 指標と周辺症状の変化を分析した結果得られた指標であり、要介護度や障害自立度、認知症自立度と比較して変化に対しての敏感性に優れており、施設内等における介入の効果が可能な指標である。

要約指標

1. 移動及びADL	= 歩行+基本動作+排泄+入浴
2. 食事及びセルフケア	= 嚥下+食事動作+セルフケア+衣服+口腔ケア
3. 認知機能	= オリエンテーション+コミュニケーション+精神機能
4. 周辺症状	= 関連 12 項目の合計 (数値が多いほど悪い)
5. 社会参加	= 余暇+社会交流

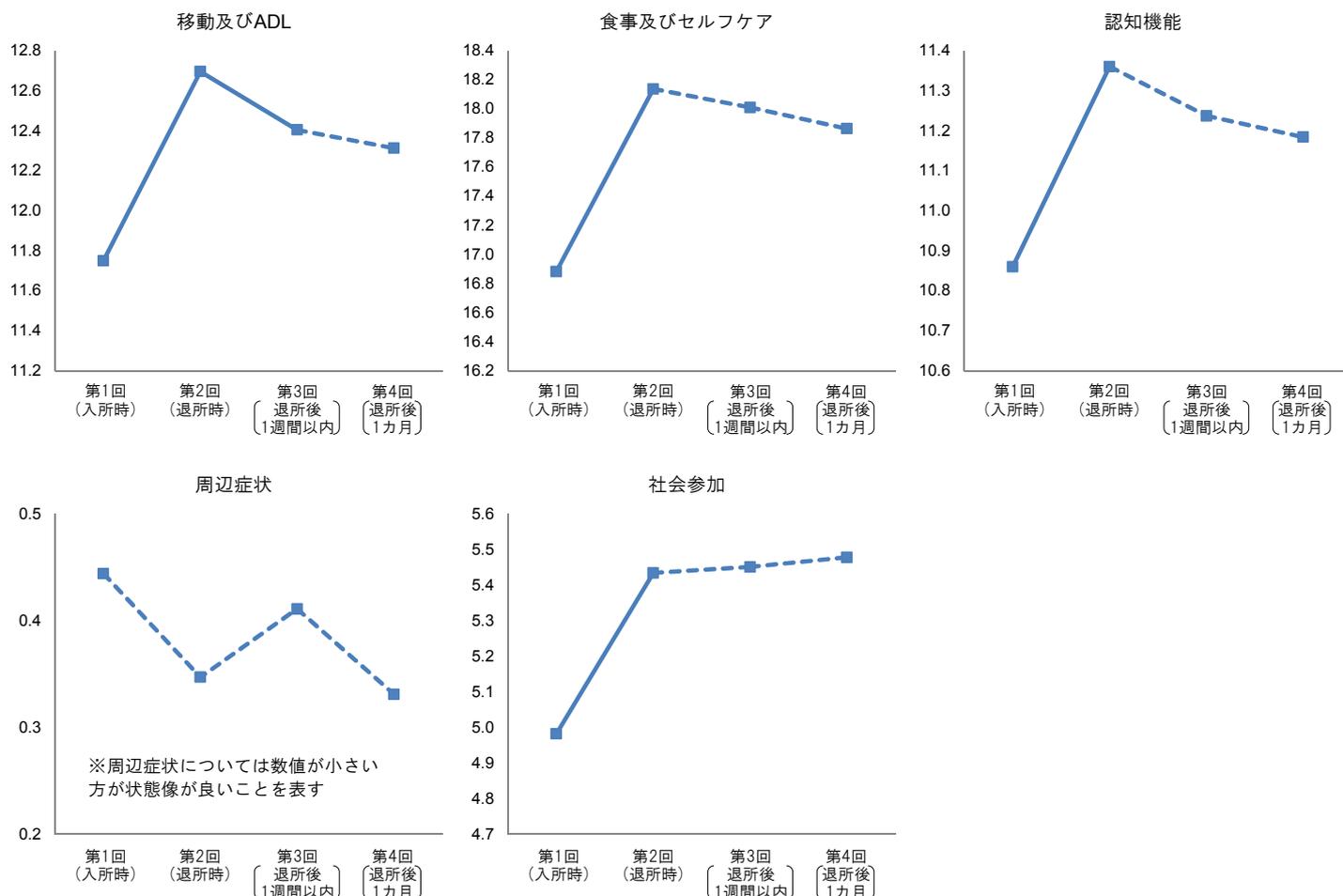
図表 2-8 において各要約指標の平均値の推移をみると、「移動及び ADL」、「食事及びセルフケア」「認知機能」の 3 つの指標については、施設入所中（入所時から退所時にかけて）はいずれも数値が増加（改善）傾向にあるのに対し、在宅復帰後は徐々に数値が低下していることがみてとれる。

また、「周辺症状」については、施設入所中に数値が減少（改善）するも、在宅復帰後一時的に増加（悪化）し、以後時間の経過とともに減少（改善）している（周辺症状については数値が小さいほど状態が良い）。環境の変化により一時的に悪化するものの、時間の経過とともに改善傾向となっていることがわかる。

さらに、「社会参加」については、施設入所中に数値が増加し、さらに在宅復帰後もわずかながら数値が増加（改善）していることが把握された。

⁵ 大河内二郎、ICF ステージングを用いた高齢者の状態の変化についての把握法の検討、厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）分担研究報告書

図表 2-8. 各要約指標の平均値の推移



※図中、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

	施設		在宅	
	第1回 (入所時)	第2回 (退所時)	第3回 (退所後 1週間以内)	第4回 (退所後 1ヵ月)
移動及びADL	11.8	12.7	12.4	12.3
前回調査時からの変化		<u>+0.95</u>	-0.29	-0.09
食事及びセルフケア	16.9	18.1	18.0	17.9
前回調査時からの変化		<u>+1.25</u>	-0.13	-0.15
認知機能	10.9	11.4	11.2	11.2
前回調査時からの変化		<u>+0.50</u>	-0.12	-0.05
周辺症状	0.4	0.3	0.4	0.3
前回調査時からの変化		-0.10	+0.06	-0.08
社会参加	5.0	5.4	5.5	5.5
前回調査時からの変化		<u>+0.45</u>	+0.02	+0.03

※平均値の差につき、有意なものには下線を付した。

※周辺症状については、数値が小さい方が状態が良いことを表す。

以下、5つの要約指標それぞれにつき、要約指標の平均値、調査実施時期の平均値の差、及び調査実施時期の平均値の差が有意であるかどうかにつき、統計量等を記載する。

①移動及びADLの変化（歩行＋基本動作＋排泄＋入浴）

要約指標の一つ目である「移動及びADLについて」、状態の変化をみると、第1回との比較については、第2回、第3回、第4回ともに第1回に対し大きく改善している（平均値の差がマイナスとなっている）。

また、第2回との比較については、第3回、第4回で悪化（平均値の差が増加）している。なお、第3回、第4回との比較については、有意差はなかった。

図表2-9. 要約指標（移動及びADL）の記述統計量

	平均値	標準偏差
第1回（入所時）	11.755	.291
第2回（退所時）	12.700	.283
第3回（退所後1週間以内）	12.409	.308
第4回（退所後1ヵ月）	12.318	.319

図表2-10. 要約指標（移動及びADL）平均値の調査回数間の比較

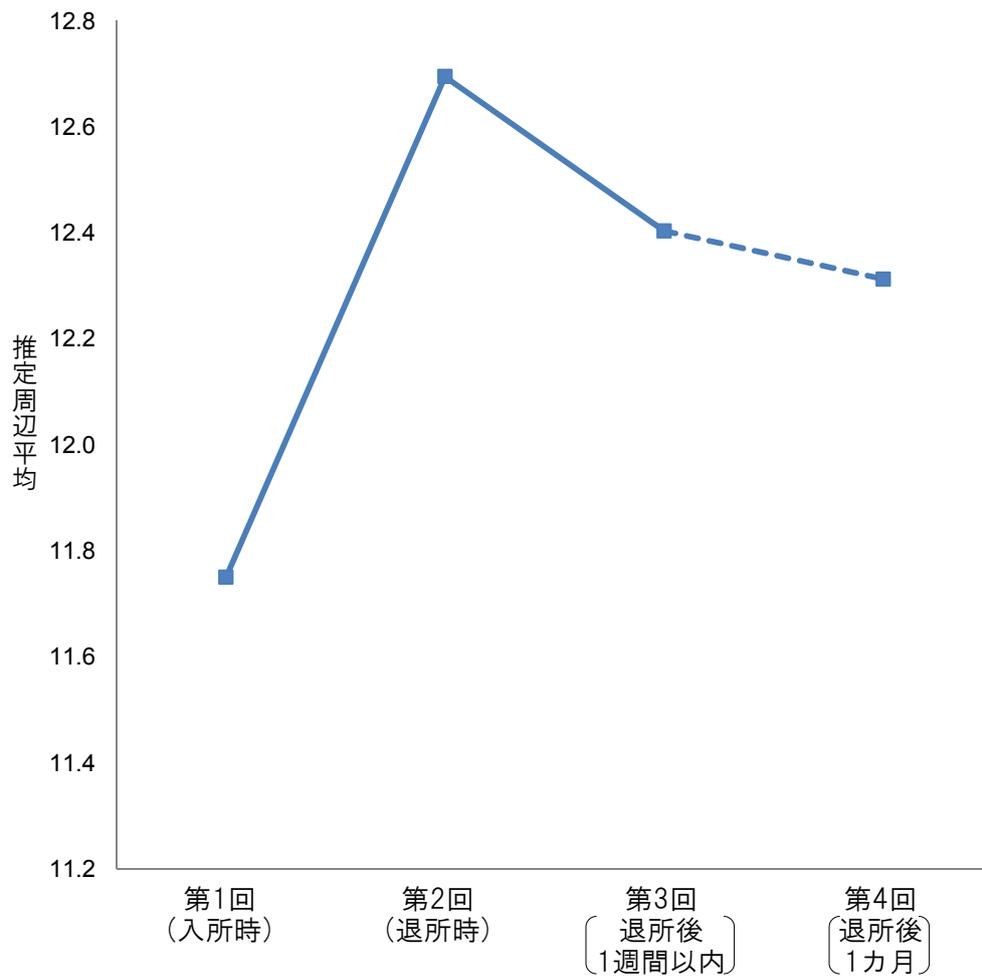
(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^b	95% 平均差信頼区間 ^b	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-.945*	.195	.000	-1.333	-.558
	第3回(退所後1週間以内)	-.655*	.228	.005	-1.106	-.203
	第4回(退所後1ヵ月)	-.564*	.250	.026	-1.060	-.068
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	.945*	.195	.000	.558	1.333
	第3回(退所後1週間以内)	.291*	.133	.030	.028	.554
	第4回(退所後1ヵ月)	.382*	.178	.035	.028	.736
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	.655*	.228	.005	.203	1.106
	第2回(退所時)	-.291*	.133	.030	-.554	-.028
	第4回(退所後1ヵ月)	.091	.120	.451	-.147	.329
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.564*	.250	.026	.068	1.060
	第2回(退所時)	-.382*	.178	.035	-.736	-.028
	第3回(退所後1週間以内)	-.091	.120	.451	-.329	.147

推定周辺平均に基づいた

*. 平均の差は .05 水準で有意です。

b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

図表 2-11. 第1回調査から第4回調査にかけての要約指標「移動及びADL」の平均の推移



※図中、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

②食事及びセルフケア（嚥下＋食事動作＋セルフケア＋衣服＋口腔ケア）

次いで、要約指標「食事及びセルフケア」について、状態の変化をみる。

まず、第1回との比較については、「移動及びADL」と同様に、第2回、第3回、第4回ともに第1回に対し大きく改善している（平均値の差がマイナスとなっている）。

ただし、第2回、第3回、第4回との比較については、有意差はなかった。

図表2-12. 要約指標（食事及びセルフケア）の記述統計量

	平均値	標準偏差
第1回（入所時）	16.8818	4.42207
第2回（退所時）	18.1364	4.63231
第3回（退所後1週間以内）	18.0091	4.73033
第4回（退所後1ヵ月）	17.8636	4.95758

図表2-13. 要約指標（食事およびセルフケア）平均値の調査回数間の比較

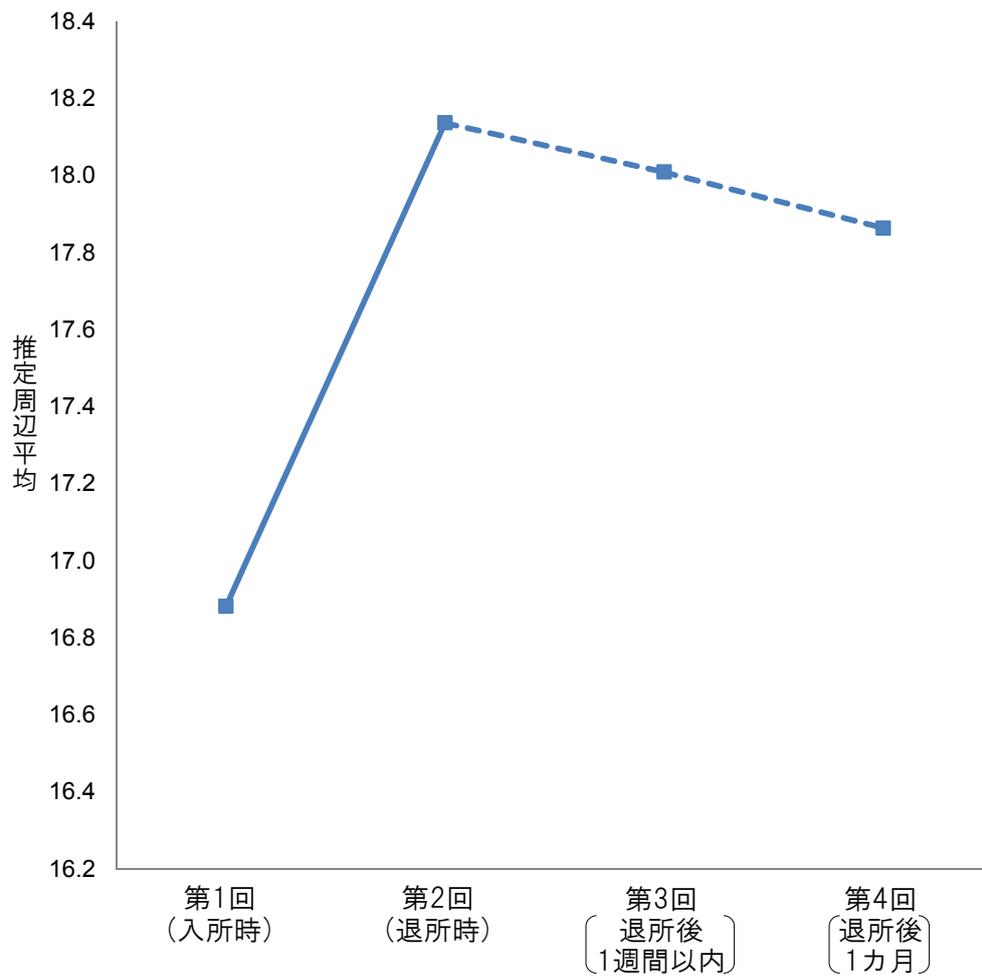
(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^b	95% 平均差信頼区間 ^b	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-1.255*	.256	.000	-1.943	-.566
	第3回(退所後1週間以内)	-1.127*	.275	.000	-1.866	-.388
	第4回(退所後1ヵ月)	-.982*	.318	.015	-1.836	-.127
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	1.255*	.256	.000	.566	1.943
	第3回(退所後1週間以内)	.127	.206	1.000	-.427	.682
	第4回(退所後1ヵ月)	.273	.261	1.000	-.430	.975
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	1.127*	.275	.000	.388	1.866
	第2回(退所時)	-.127	.206	1.000	-.682	.427
	第4回(退所後1ヵ月)	.145	.168	1.000	-.307	.598
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.982*	.318	.015	.127	1.836
	第2回(退所時)	-.273	.261	1.000	-.975	.430
	第3回(退所後1週間以内)	-.145	.168	1.000	-.598	.307

推定周辺平均に基づいた

*. 平均の差は .05 水準で有意です。

b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

図表2-14. 第1回調査から第4回調査にかけての「食事及びセルフケア」の平均の推移



※図中、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

③認知機能（オリエンテーション＋コミュニケーション＋精神機能）

要約指標「認知機能」について、状態の変化をみる。

まず、第1回との比較については、他の要約指標と同様に、第2回、第3回が第1回に対し改善している（平均値の差がマイナスとなっている）が、第4回については有意差はなかった。

また、第2回、第3回、第4回との比較についても、有意差はなかった。

図表 2-15. 要約指標（認知機能）の記述統計量

	平均値	標準偏差
第1回（入所時）	10.860	.294
第2回（退所時）	11.360	.278
第3回（退所後1週間以内）	11.237	.275
第4回（退所後1ヵ月）	11.184	.289

図表 2-16. 要約指標（認知機能）平均値の調査回数間の比較

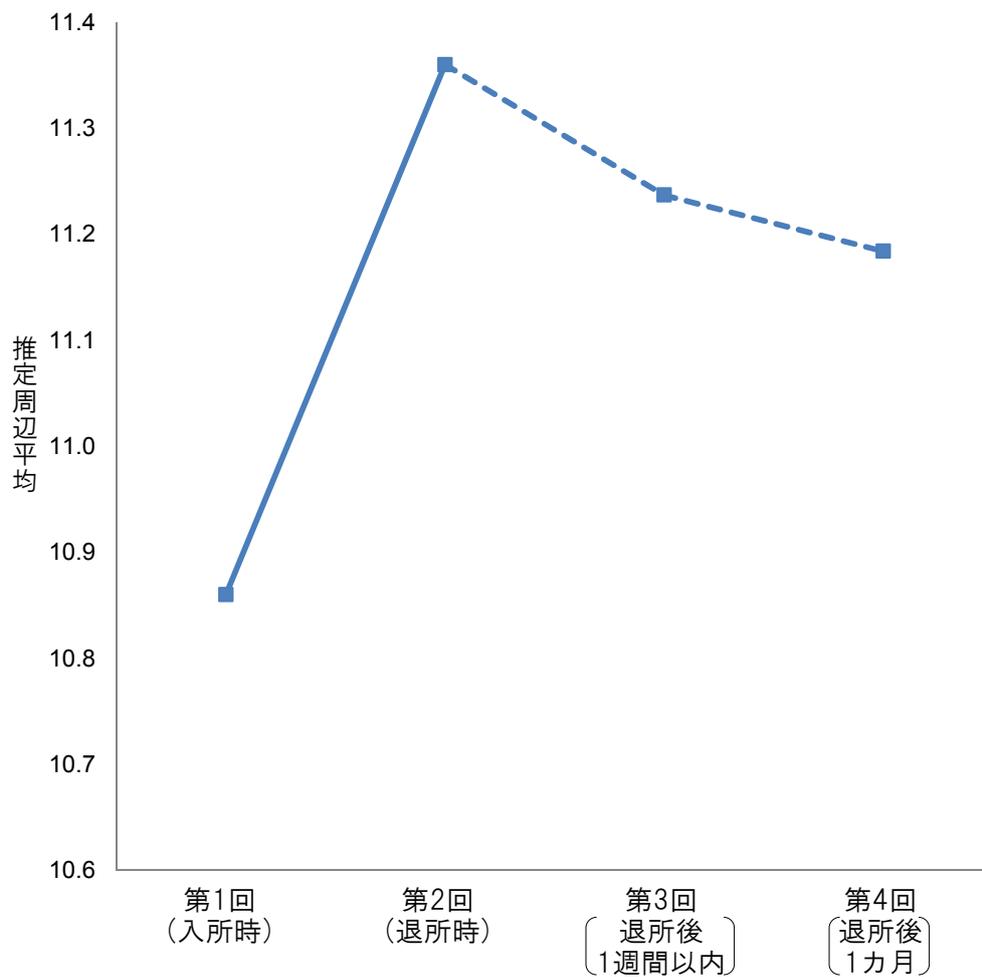
(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^b	95% 平均差信頼区間 ^b	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-.500*	.165	.003	-.827	-.173
	第3回(退所後1週間以内)	-.377*	.161	.021	-.696	-.059
	第4回(退所後1ヵ月)	-.325	.178	.070	-.677	.028
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	.500*	.165	.003	.173	.827
	第3回(退所後1週間以内)	.123	.130	.345	-.134	.380
	第4回(退所後1ヵ月)	.175	.137	.202	-.095	.446
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	.377*	.161	.021	.059	.696
	第2回(退所時)	-.123	.130	.345	-.380	.134
	第4回(退所後1ヵ月)	.053	.062	.399	-.070	.176
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.325	.178	.070	-.028	.677
	第2回(退所時)	-.175	.137	.202	-.446	.095
	第3回(退所後1週間以内)	-.053	.062	.399	-.176	.070

推定周辺平均に基づいた

*. 平均の差は .05 水準で有意です。

b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

図表 2-17. 第1回調査から第4回調査にかけての要約指標（認知機能）の平均の推移



※図中、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

④周辺症状（関連12項目の合計）

要約指標「周辺症状」の平均値については、数値が低いほど状態が良いことを指す。

なお、調査回数間の比較については、いずれの調査回数どうしの組み合わせにおいても、有意差はなかった。

図表 2-18. 要約指標（周辺症状）の記述統計量

	平均値	標準偏差
第1回（入所時）	.444	.098
第2回（退所時）	.347	.089
第3回（退所後1週間以内）	.411	.086
第4回（退所後1ヵ月）	.331	.076

図表 2-19. 要約指標（周辺症状）平均値の調査回数間の比較

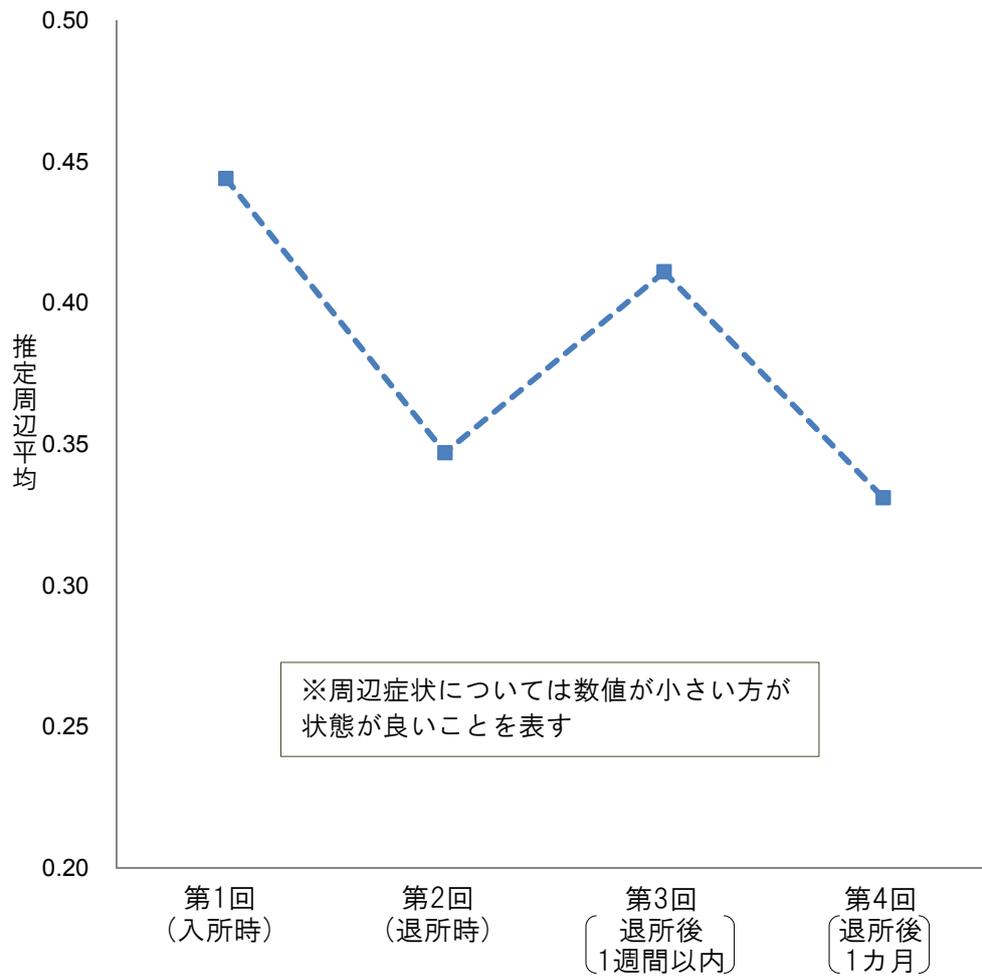
(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^b	95% 平均差信頼区間 ^b	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	.097	.059	.103	-.020	.213
	第3回(退所後1週間以内)	.032	.062	.601	-.090	.154
	第4回(退所後1ヵ月)	.113	.104	.282	-.094	.320
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	-.097	.059	.103	-.213	.020
	第3回(退所後1週間以内)	-.065	.062	.304	-.188	.059
	第4回(退所後1ヵ月)	.016	.104	.877	-.190	.223
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	-.032	.062	.601	-.154	.090
	第2回(退所時)	.065	.062	.304	-.059	.188
	第4回(退所後1ヵ月)	.081	.077	.299	-.072	.234
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	-.113	.104	.282	-.320	.094
	第2回(退所時)	-.016	.104	.877	-.223	.190
	第3回(退所後1週間以内)	-.081	.077	.299	-.234	.072

推定周辺平均に基づいた

*. 平均の差は .05 水準で有意です。

b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

図表 2-20. 第1回調査から第4回調査にかけての要約指標「周辺症状」の平均の推移



※図中、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

⑤社会参加（余暇＋社会交流）

最後の要約指標「社会参加」について、状態の変化をみる。

まず、第1回との比較については、「食事及びセルフケア」と同様に、第2回、第3回、第4回ともに第1回に対し改善している（平均値の差がマイナスとなっている）。

ただし、第2回、第3回、第4回との比較については、有意差はなかった。

図表 2-2 1. 要約指標（周辺症状）の記述統計量

	平均値	標準偏差
第1回（入所時）	4.982	.123
第2回（退所時）	5.434	.123
第3回（退所後1週間以内）	5.451	.154
第4回（退所後1ヵ月）	5.478	.153

図表 2-2 2. 要約指標（認知機能）平均値の調査回数間の比較

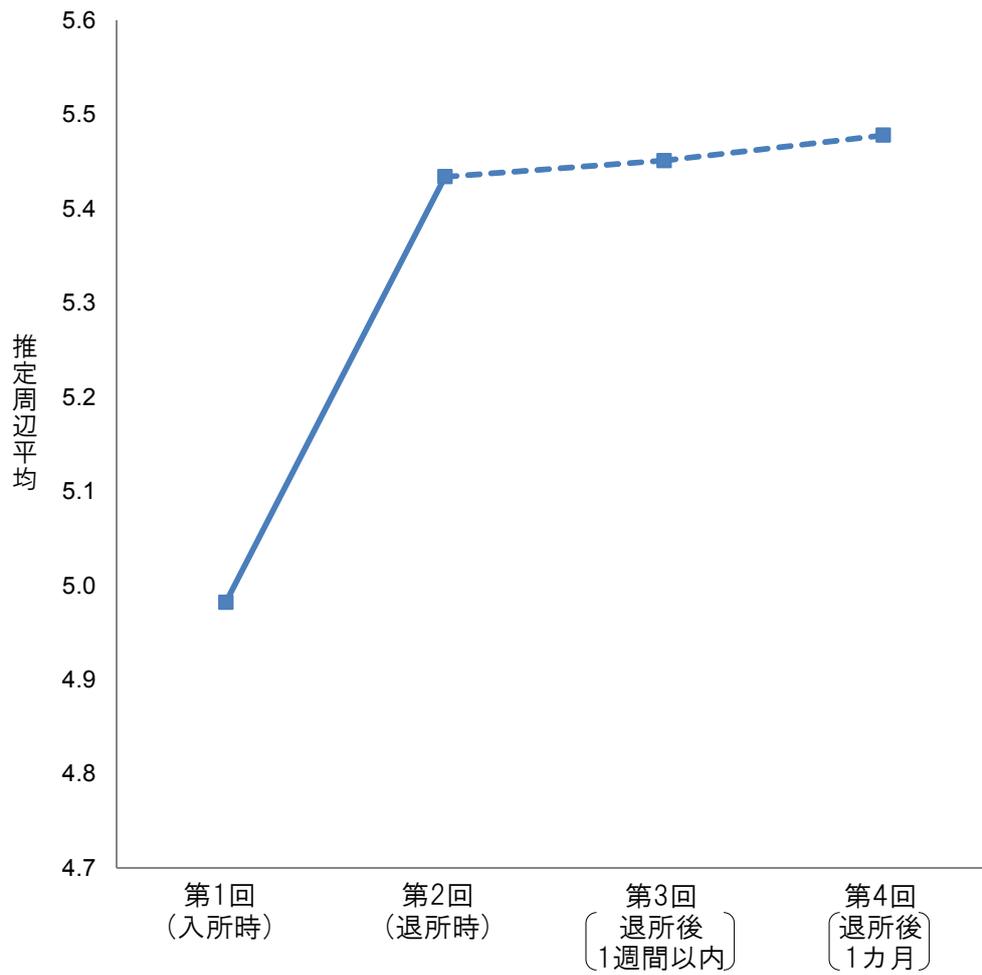
(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 ^b	95% 平均差信頼区間 ^b	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-.451*	.101	.000	-.652	-.251
	第3回(退所後1週間以内)	-.469*	.139	.001	-.744	-.194
	第4回(退所後1ヵ月)	-.496*	.132	.000	-.757	-.234
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	.451*	.101	.000	.251	.652
	第3回(退所後1週間以内)	-.018	.112	.874	-.239	.204
	第4回(退所後1ヵ月)	-.044	.106	.678	-.255	.166
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	.469*	.139	.001	.194	.744
	第2回(退所時)	.018	.112	.874	-.204	.239
	第4回(退所後1ヵ月)	-.027	.072	.712	-.168	.115
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.496*	.132	.000	.234	.757
	第2回(退所時)	.044	.106	.678	-.166	.255
	第3回(退所後1週間以内)	.027	.072	.712	-.115	.168

推定周辺平均に基づいた

*. 平均の差は .05 水準で有意です。

b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

図表 2-23. 第1回調査から第4回調査にかけての「社会参加」の推定周辺平均の推移



※図中、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

(5) 各調査間における項目ごとのスコアの変化

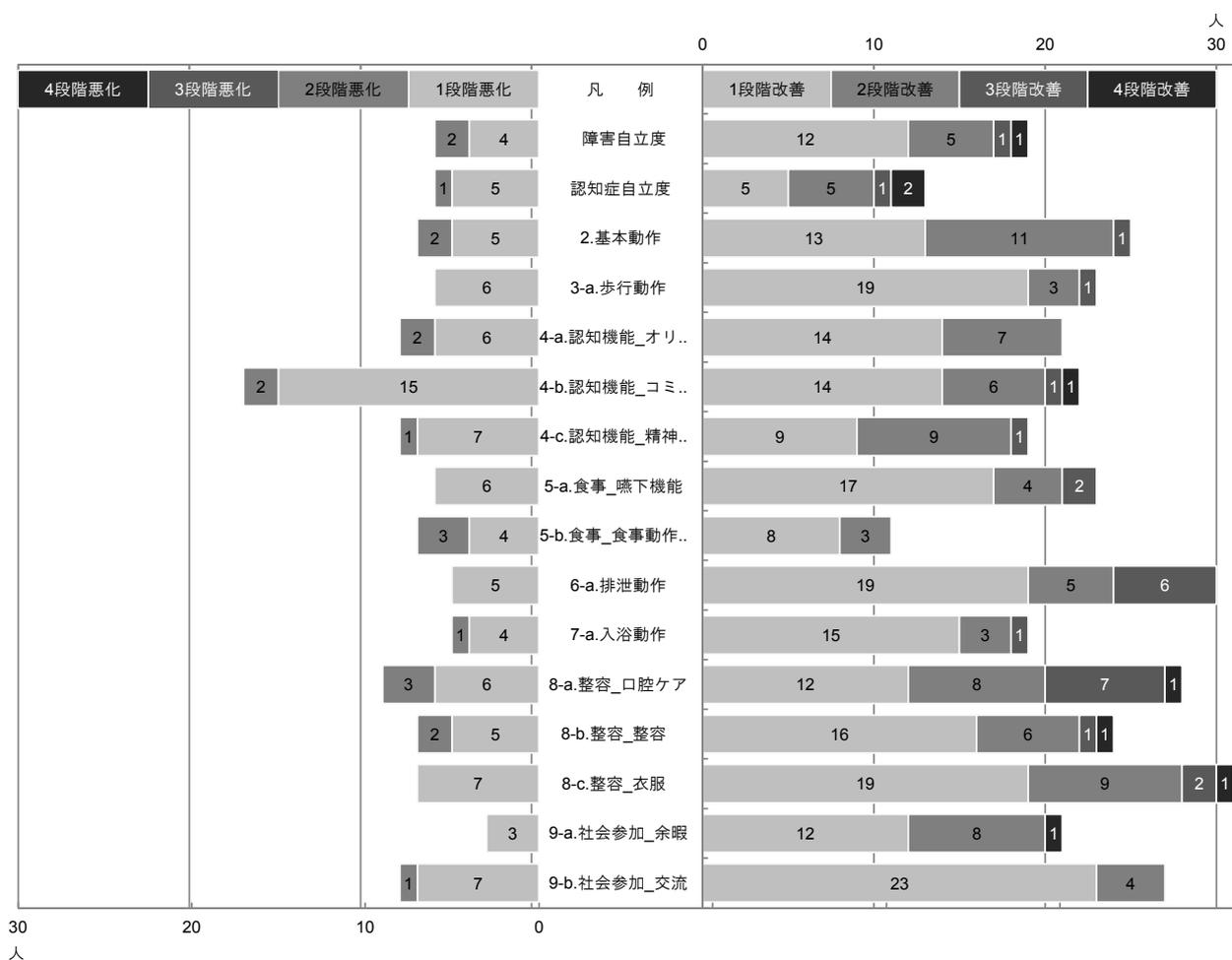
①第1回調査から第2回調査(入所中の変化)

障害自立度、認知症自立度及びICFステージの各項目について、第1回調査(入所時)と第2回調査(退所時)にかけてのスコアの変化を見たものが、図表2-24及び2-25である。

図表2-24をみると、ほとんどの項目で悪化している人の数を改善している人の数が上回っていることがわかる。特に、8-c.整容_衣服や6-a.排泄動作、8-a.整容_口腔ケアなどの項目で多くの方が改善していることがわかる。他方、5-b.食事動作については、他の項目と比較し改善した方の数が少ない。

また、4-b.認知機能_コミュニケーションについては、悪化した方の数が、他の項目と比べて多いのが特徴的である。

図表2-24. 第1回調査から第2回調査にかけてのスコアの変化(改善もしくは悪化した者の人数、n=120~124(図表2-25参照))



※表内凡例で短縮表記している項目は以下のとおり

- 4-a. 認知機能_オリエンテーション(見当識)
- 4-b. 認知機能_コミュニケーション
- 4-c. 認知機能_精神活動
- 5-b. 食事_食事動作及び食事介助

図表 2-25. 第1回調査から第2回調査にかけての項目ごとのスコアの変化

	障害自立度	認知症自立度	2.基本動作	3-a.歩行動作	4-a.認知機能_オリエンテーション(見当識)	4-b.認知機能_コミュニケーション	4-c.認知機能_精神活動	5-a.食事_嚥下機能
4段階改善	1	2				1		
3段階改善	1	1	1	1		1	1	2
2段階改善	5	5	11	3	7	6	9	4
1段階改善	12	5	13	19	14	14	9	17
変化なし	95	102	92	95	95	85	97	95
1段階悪化	4	5	5	6	6	15	7	6
2段階悪化	2	1	2		2	2	1	
3段階悪化								
4段階悪化								
	120	121	124	124	124	124	124	124

	5-b.食事_食事動作及び食事介助	6-a.排泄動作	7-a.入浴動作	8-a.整容_口腔ケア	8-b.整容_整容	8-c.整容_衣服	9-a.社会参加_余暇	9-b.社会参加_交流
4段階改善				1	1	1	1	
3段階改善		6	1	7	1	2		
2段階改善	3	5	3	8	6	9	8	4
1段階改善	8	19	15	12	16	19	12	23
変化なし	106	89	100	87	93	86	100	89
1段階悪化	4	5	4	6	5	7	3	7
2段階悪化	3		1	3	2			1
3段階悪化								
4段階悪化								
	124	124	124	124	124	124	124	124

	障害自立度	認知症自立度	2.基本動作	3-a.歩行動作	4-a.認知機能_オリエンテーション(見当識)	4-b.認知機能_コミュニケーション	4-c.認知機能_精神活動	5-a.食事_嚥下機能
4段階改善								
3段階改善	0.8%	0.8%		0.8%				1.6%
2段階改善	4.2%	4.1%	8.9%	2.4%		4.8%	7.3%	3.2%
1段階改善	10.0%	4.1%	10.5%	15.3%	11.3%	11.3%	7.3%	13.7%
変化なし	79.2%	84.3%	74.2%	76.6%	76.6%	68.5%	78.2%	76.6%
1段階悪化	3.3%	4.1%	4.0%	4.8%	4.8%	12.1%	5.6%	4.8%
2段階悪化	1.7%	0.8%	1.6%	0.0%	1.6%	1.6%	0.8%	0.0%
3段階悪化		0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%
4段階悪化		0.0%	0.0%					

	5-b.食事_食事動作及び食事介助	6-a.排泄動作	7-a.入浴動作	8-a.整容_口腔ケア	8-b.整容_整容	8-c.整容_衣服	9-a.社会参加_余暇	9-b.社会参加_交流
4段階改善								
3段階改善	0.0%					1.6%		
2段階改善	2.4%			6.5%	4.8%	7.3%	6.5%	3.2%
1段階改善	6.5%	15.3%	12.1%	9.7%	12.9%	15.3%	9.7%	18.5%
変化なし	85.5%	71.8%	80.6%	70.2%	75.0%	69.4%	80.6%	71.8%
1段階悪化	3.2%	4.0%	3.2%	4.8%	4.0%	5.6%	2.4%	5.6%
2段階悪化	2.4%	0.0%	0.8%	2.4%	1.6%	0.0%	0.0%	
3段階悪化	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%		
4段階悪化	0.0%			0.0%			0.0%	

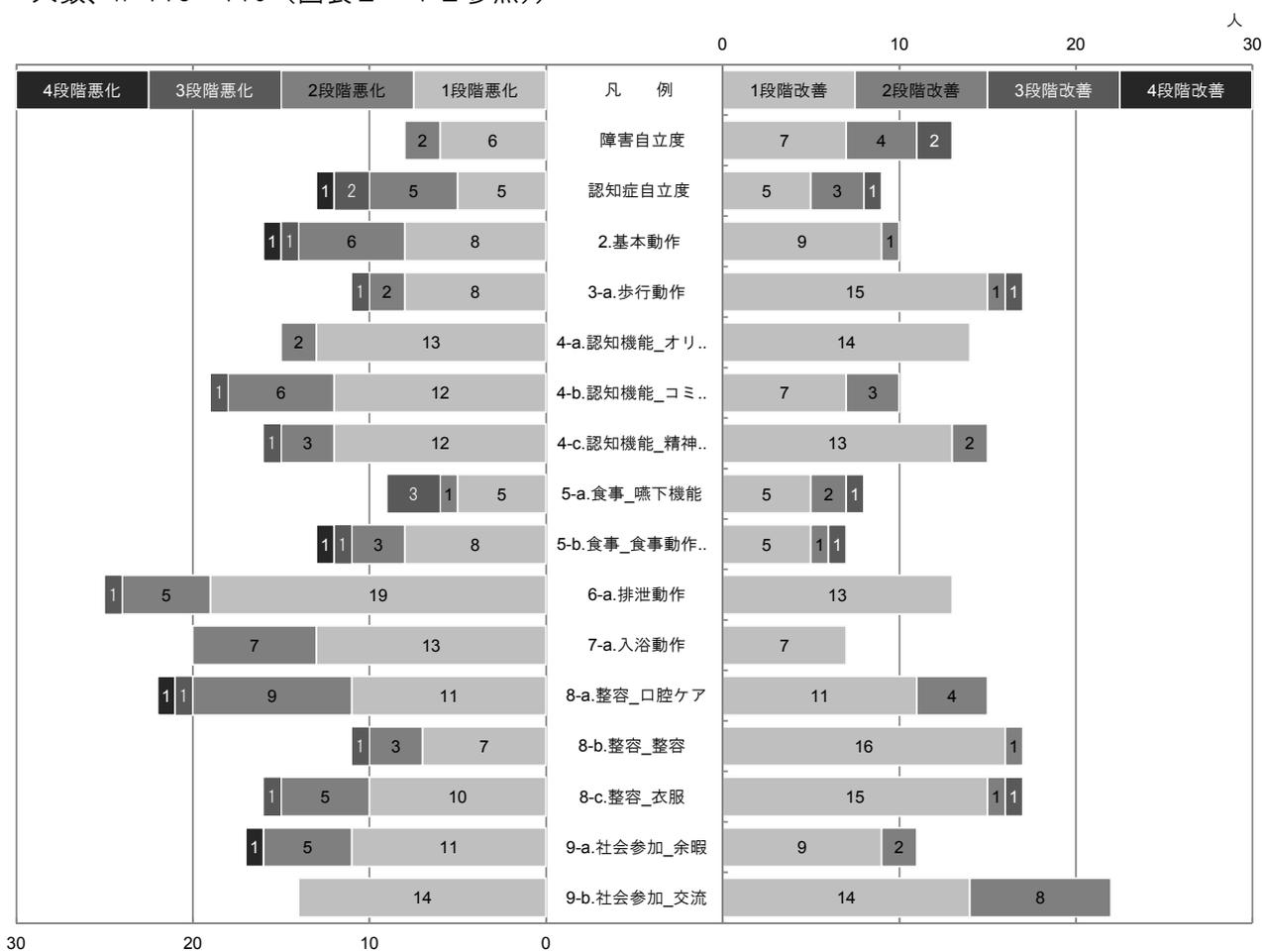
②第2回調査から第4回調査（退所時から退所後1ヵ月間の変化）

（1）と同じく、障害自立度、認知症自立度及びICFステージングの各項目について、第2回調査（退所時）から第4回調査（退所後1ヵ月）にかけてのスコアの変化を見たものが図表2-26である。

障害自立度はスコアが上昇（改善）、認知症自立度についてはスコアが低下（悪化）した方が人数が多い。また、ICFステージングの各項目については、6-a.排泄動作、7-a.入浴動作、4-b.認知機能_コミュニケーションなどでは、改善よりも悪化した方が人数が多い一方で、3-a.歩行動作、8-b.整容_整容、9-b.社会参加_交流などでは、改善した方が人数が多くなった。

また、次ページの図表2-27は、図表2-25同様に、第2回調査から第4回調査にかけてのスコア変化の状況を人数及び割合で示したものであるが、5-a.食事_嚥下機能及び5-b.食事_食事動作及び食事介助では、「変化なし」の割合が8割以上であるのに対し、6-a.排泄動作、8-a.整容_口腔ケア、9-b.社会参加_交流では「変化なし」は60%台と、状況変化があらわれる割合も、項目により異なることがわかった。

図表 2-26. 第2回調査から第4回調査にかけてのスコアの変化（改善もしくは悪化した者の人数、n=113~119（図表2-12参照））



※表内凡例で短縮表記している項目は以下のとおり

- 4-a. 認知機能_オリエンテーション（見当識）
- 4-b. 認知機能_コミュニケーション
- 4-c. 認知機能_精神活動
- 5-b. 食事_食事動作及び食事介助

図表 2-27. 第2回調査から第4回調査にかけての項目ごとのスコアの変化

	障害自立度	認知症自立度	2.基本動作	3-a.歩行動作	4-a.認知機能_オリエンテーション(見当識)	4-b.認知機能_コミュニケーション	4-c.認知機能_精神活動	5-a.食事_嚥下機能
4段階改善								
3段階改善	2	1		1				1
2段階改善	4	3	1	1		3	2	2
1段階改善	7	5	9	15	14	7	13	5
変化なし	92	91	91	88	87	90	86	97
1段階悪化	6	5	8	8	13	12	12	5
2段階悪化	2	5	6	2	2	6	3	1
3段階悪化		2	1	1		1	1	3
4段階悪化		1	1					
	113	113	117	115	116	119	117	113

	5-b.食事_食事動作及び食事介助	6-a.排泄動作	7-a.入浴動作	8-a.整容_口腔ケア	8-b.整容_整容	8-c.整容_衣服	9-a.社会参加_余暇	9-b.社会参加_交流
4段階改善								
3段階改善	1					1		
2段階改善	1			4	1	1	2	8
1段階改善	5	13	7	11	16	15	9	14
変化なし	96	78	89	82	89	84	86	78
1段階悪化	8	19	13	11	7	10	11	14
2段階悪化	3	5	7	9	3	5	5	
3段階悪化	1	1		1	1	1		
4段階悪化	1			1			1	
	115	116	116	119	117	116	114	114

	障害自立度	認知症自立度	2.基本動作	3-a.歩行動作	4-a.認知機能_オリエンテーション(見当識)	4-b.認知機能_コミュニケーション	4-c.認知機能_精神活動	5-a.食事_嚥下機能
4段階改善								
3段階改善	1.8%	0.9%		0.9%				0.9%
2段階改善	3.5%	2.7%	0.9%	0.9%		2.5%	1.7%	1.8%
1段階改善	6.2%	4.4%	7.7%	13.0%	12.1%	5.9%	11.1%	4.4%
変化なし	81.4%	80.5%	77.8%	76.5%	75.0%	75.6%	73.5%	85.8%
1段階悪化	5.3%	4.4%	6.8%	7.0%	11.2%	10.1%	10.3%	4.4%
2段階悪化	1.8%	4.4%	5.1%	1.7%	1.7%	5.0%	2.6%	0.9%
3段階悪化		1.8%	0.9%	0.9%		0.8%	0.9%	2.7%
4段階悪化		0.9%	0.9%					

	5-b.食事_食事動作及び食事介助	6-a.排泄動作	7-a.入浴動作	8-a.整容_口腔ケア	8-b.整容_整容	8-c.整容_衣服	9-a.社会参加_余暇	9-b.社会参加_交流
4段階改善								
3段階改善	0.9%					0.9%		
2段階改善	0.9%			3.4%	0.9%	0.9%	1.8%	7.0%
1段階改善	4.3%	11.2%	6.0%	9.2%	13.7%	12.9%	7.9%	12.3%
変化なし	83.5%	67.2%	76.7%	68.9%	76.1%	72.4%	75.4%	68.4%
1段階悪化	7.0%	16.4%	11.2%	9.2%	6.0%	8.6%	9.6%	12.3%
2段階悪化	2.6%	4.3%	6.0%	7.6%	2.6%	4.3%	4.4%	
3段階悪化	0.9%	0.9%		0.8%	0.9%	0.9%		
4段階悪化	0.9%			0.8%			0.9%	

3. [03-2]居宅介護支援専門員調査の概要

(1) 調査結果概要

続いて、居宅介護支援専門員調査の結果概要を示す。調査票の回収数は124票であるが、1人の居宅介護支援専門員が複数票を回答しているため名寄せを行った結果、集計対象数は113票となっている。

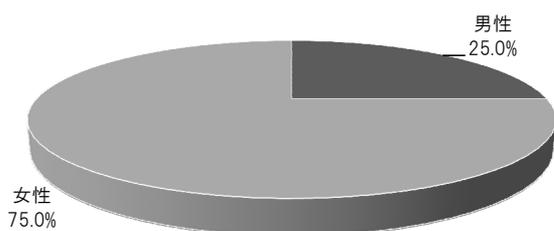
①回答者の属性

調査に協力いただいた居宅介護支援専門員の属性は以下のとおり。

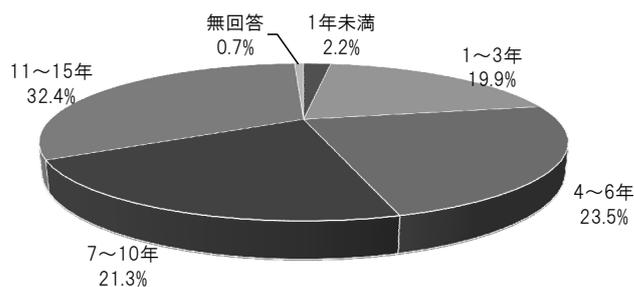
まず、性別（図表3-1）については、男性が25.0%、女性が75.0%と、女性が3/4を占めている。また、介護支援専門員としての業務経験年数（図表3-2）は、「11～15年」が最も多く32.4%、次いで、「4～6年」（23.5%）、「7～10年」（21.3%）、「1～3年」（19.9%）の順となっている。

現在の勤務先（図表3-3）については、居宅介護支援事業所（特定事業所）が最も多く69.9%、次いで居宅介護支援事業所（特定事業所以外）が19.5%であった。

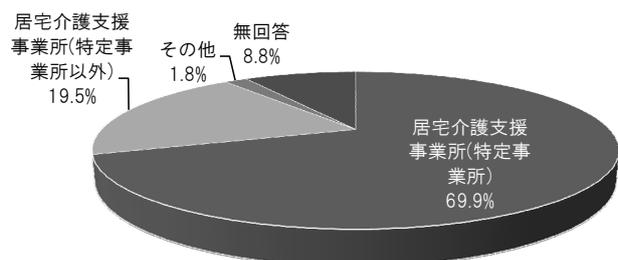
図表3-1. 回答者の性別（n=113）



図表3-2. 介護支援専門員としての業務経験年数（n=113）



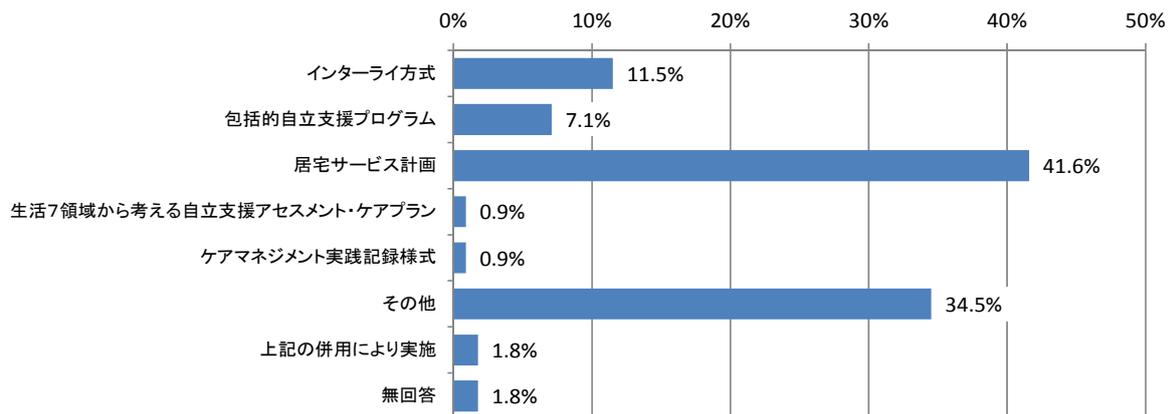
図表3-3. 現在の勤務先（n=113）



(2) 現在使用しているアセスメント手法

現在使用しているアセスメント手法（図表3-4）については、居宅サービス計画（全社協方式）の使用が最も多く、41.6%の居宅介護支援専門員が利用していると回答している。次いで、インターライ方式（旧・MDS-HC）が11.5%、包括的自立支援プログラム（三団体方式）が7.1%であった。なお、選択肢として掲げた以外のアセスメント手法を使用している居宅介護支援専門員も34.5%いることが把握された。

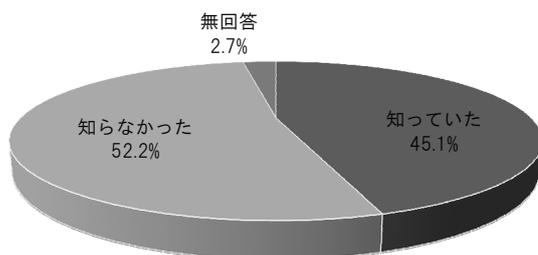
図表3-4. 現在使用しているアセスメント手法（n=113）



(3) R4 システムの認知度

R4 システム（新全老健版ケアマネジメント方式）をご存じであったかどうかをたずねたところ（図表3-5）、「知っていた」は45.1%、「知らなかった」は52.2%であり、「知らなかった」と回答した方が「知っていた」をやや上回った。

図表3-5. R4 システムの認知度（n=113）

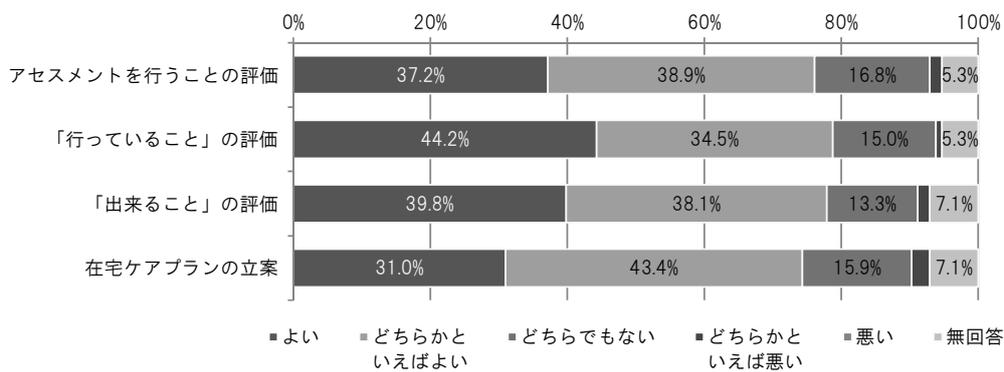


(4) ICF ステージングを参考としたケアマネジメントについての評価

①在宅において ICF ステージングを参考としたケアマネジメントを行うことについての評価

在宅における ICF ステージングを参考としたケアマネジメントについての評価を聞いたところ、図表 3-6 のいずれの項目においても、よい（「よい」「どちらかといえばよい」の合計）との評価が 7 割を超えている。また、「悪い」と回答した方は 1 人もおらず、「どちらかといえば悪い」の回答もごくわずかであることから、ICF ステージングを参考としたケアマネジメントについては、おおむね良好な評価が得られている。

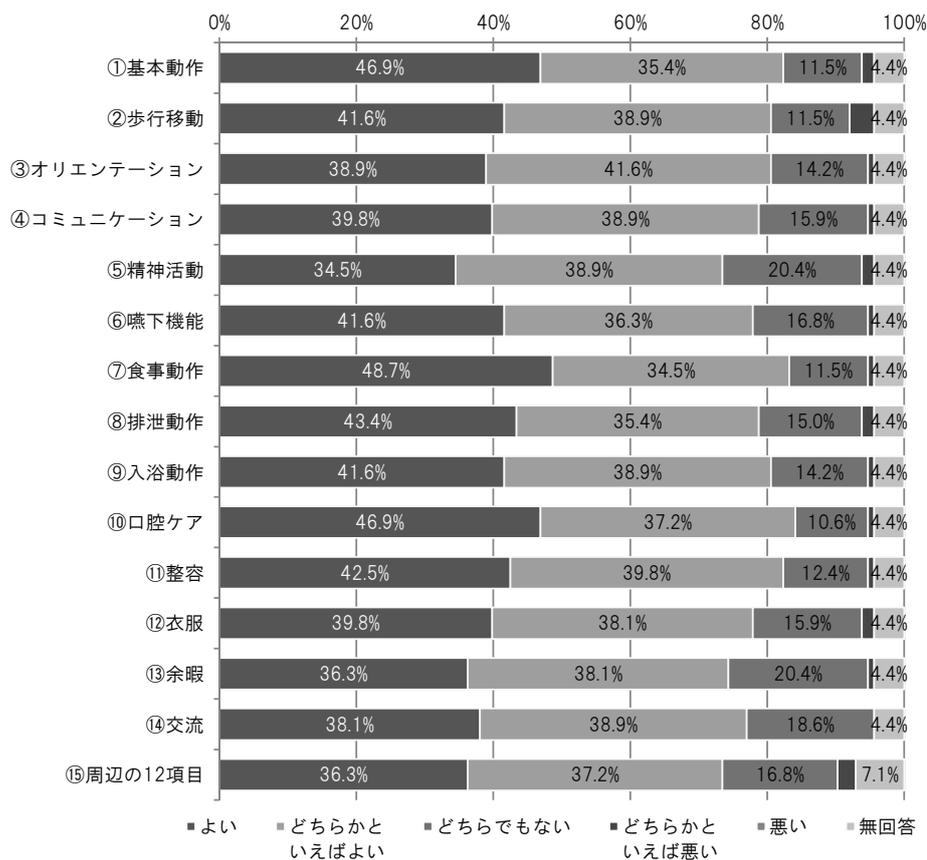
図表 3-6. 在宅における ICF ステージングを参考としたケアマネジメントについての評価 (n=113)



②ICF ステージングの各調査項目についての評価

ICF ステージングの各調査項目についての評価をみると（図表3-7）、いずれの項目においても、よい（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）との評価が7割を超えており、いずれの調査項目もおおむね良好な評価が得られている。特に「①基本動作」「⑦食事動作」「⑨入浴動作」「⑩口腔ケア」「⑪整容」については、よいとの評価が8割を超えている。

図表3-7. ICF ステージングの各調査項目についての評価（n=113）



(5) 従来方法と比較した ICF ステージングを使用することによる変化

従来の要介護度「手のかかり度」から ICF ステージングを使用することで、どのような変化があったかをたずねたのが図表 3-8 である。結果をみると特に「1)能力の把握がしやすかった」と回答した居宅介護支援専門員が多く、6割を超える回答があった。

比較的评价の高かった項目としては「3)生活状況の把握がしやすかった」「2)能力の変化が把握しやすかった」「5)課題の整理に役立った」などが挙げられる。

一方、「8)利用者や家族への説明に役立った」や「9)サービス事業者への説明に役立った」などについては、変化があったとの意見は1割程度の回答であり、あまり多く集まらなかった。

図表 3-8. 従来方法と比較した ICF ステージングを使用することによる変化 (n=113、複数回答)

	回答数	回答割合
1)能力が把握しやすかった	72	63.7%
2)能力の変化が把握しやすかった	40	35.4%
3)生活状況が把握しやすかった	46	40.7%
4)生活状況の変化が把握しやすかった	25	22.1%
5)課題の整理に役立った	34	30.1%
6)生活目標の設定に役立った	23	20.4%
7)利用者・家族からの情報収集に役立った	17	15.0%
8)利用者や家族への説明に役立った	9	8.0%
9)サービス事業者への説明に役立った	12	10.6%
10)自身が自立支援の視点により立ちやすかった	24	21.2%
11)自立支援に向けたサービス内容選択に役立った	15	13.3%
12)上記に該当なし	7	6.2%

第3章 単純集計表

1. [03-1]退所者生活機能調査

年齢

	度数	%
65歳未満	2	1.6%
65-69歳	2	1.6%
70-74歳	11	8.9%
75-79歳	11	8.9%
80-84歳	29	23.4%
85-89歳	30	24.2%
90-94歳	22	17.7%
95歳以上	6	4.8%
不明	11	8.9%
合計	124	100.0%

性別

	度数	%
男性	37	29.8%
女性	76	61.3%
不明	11	8.9%
合計	124	100.0%

施設類型 ([01]老健施設の役割施設調査より)

	度数	%
在宅強化型老健	17	36.2%
在宅支援加算型老健 (在宅復帰・在宅療養支援機能加算あり)	19	40.4%
従来型老健 (在宅復帰・在宅療養支援機能加算なし)	10	21.3%
療養型老健	1	2.1%
合計	47	100.0%

※[01]老健施設の役割施設調査における不明分については追跡調査を実施した。

要介護度

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
要介護1	10	8.1%	9	7.3%	7	5.6%	8	6.5%
要介護2	26	21.0%	25	20.2%	27	21.8%	27	21.8%
要介護3	33	26.6%	36	29.0%	38	30.6%	33	26.6%
要介護4	29	23.4%	31	25.0%	29	23.4%	28	22.6%
要介護5	22	17.7%	21	16.9%	20	16.1%	18	14.5%
無回答	4	3.2%	2	1.6%	3	2.4%	10	8.1%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%

障害自立度

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
J1	1	0.8%	2	1.6%	2	1.6%	3	2.4%
J2	1	0.8%	2	1.6%	2	1.6%	1	0.8%
A1	12	9.7%	14	11.3%	19	15.3%	18	14.5%
A2	34	27.4%	34	27.4%	32	25.8%	32	25.8%
B1	17	13.7%	20	16.1%	20	16.1%	18	14.5%
B2	37	29.8%	38	30.6%	33	26.6%	32	25.8%
C1	3	2.4%	3	2.4%	4	3.2%	3	2.4%
C2	15	12.1%	9	7.3%	9	7.3%	7	5.6%
無回答	4	3.2%	2	1.6%	3	2.4%	10	8.1%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%

認知症自立度

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
正常	11	8.9%	11	8.9%	8	6.5%	7	5.6%
I	13	10.5%	20	16.1%	24	19.4%	24	19.4%
II a	21	16.9%	21	16.9%	17	13.7%	19	15.3%
II b	31	25.0%	30	24.2%	30	24.2%	29	23.4%
III a	33	26.6%	31	25.0%	24	19.4%	24	19.4%
III b	8	6.5%	4	3.2%	8	6.5%	5	4.0%
IV	3	2.4%	4	3.2%	8	6.5%	4	3.2%
M	1	0.8%	1	0.8%	2	1.6%	2	1.6%
無回答	3	2.4%	2	1.6%	3	2.4%	10	8.1%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%

2.基本動作

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	27	21.8%	37	29.8%	36	29.0%	34	27.4%
4	34	27.4%	38	30.6%	37	29.8%	35	28.2%
3	32	25.8%	22	17.7%	21	16.9%	23	18.5%
2	13	10.5%	10	8.1%	12	9.7%	13	10.5%
1	11	8.9%	10	8.1%	11	8.9%	12	9.7%
無回答	7	5.6%	7	5.6%	7	5.6%	7	5.6%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=117	3.45		3.70	(+0.25)	3.64	(-0.06)	3.56	(-0.08)

3-a.歩行動作

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5			1	0.8%			1	0.8%
4	3	2.4%	4	3.2%	4	3.2%	2	1.6%
3	34	27.4%	39	31.5%	49	39.5%	53	42.7%
2	59	47.6%	64	51.6%	52	41.9%	47	37.9%
1	20	16.1%	8	6.5%	11	8.9%	13	10.5%
無回答	8	6.5%	8	6.5%	8	6.5%	8	6.5%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=116	2.17		2.36	(+0.19)	2.40	(+0.03)	2.41	(+0.01)

3-b.移動手段(複数回答)

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
T字杖の利用	12	9.7%	16	12.9%	16	12.9%	19	15.3%
装具(短下肢装具等)	3	2.4%	3	2.4%	2	1.6%	3	2.4%
歩行器(ウオーカー、シニアカー等)の利用	20	16.1%	28	22.6%	22	17.7%	20	16.1%
しがみつき歩行器の利用(サークル歩行)	4	3.2%	4	3.2%	2	1.6%		0.0%
車椅子の利用	76	61.3%	57	46.0%	47	37.9%	36	29.0%
リクライニング式車椅子の利用	3	2.4%	3	2.4%	5	4.0%	3	2.4%
介助者や付き添いの必要	31	25.0%	22	17.7%	27	21.8%	20	16.1%

4-a.認知機能_オリエンテーション(見当識)

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	35	28.2%	40	32.3%	42	33.9%	42	33.9%
4	37	29.8%	39	31.5%	35	28.2%	35	28.2%
3	28	22.6%	25	20.2%	26	21.0%	24	19.4%
2	13	10.5%	11	8.9%	12	9.7%	14	11.3%
1	3	2.4%	1	0.8%	1	0.8%	1	0.8%
無回答	8	6.5%	8	6.5%	8	6.5%	8	6.5%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=116	3.76		3.91	(+0.16)	3.91	(-0.01)	3.89	(-0.02)

4-b.認知機能_コミュニケーション

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	37	29.8%	38	30.6%	33	26.6%	35	28.2%
4	16	12.9%	29	23.4%	28	22.6%	28	22.6%
3	45	36.3%	29	23.4%	32	25.8%	25	20.2%
2	16	12.9%	19	15.3%	24	19.4%	28	22.6%
1	5	4.0%	4	3.2%	2	1.6%	3	2.4%
無回答	5	4.0%	5	4.0%	5	4.0%	5	4.0%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=119	3.54		3.66	(+0.12)	3.55	(-0.10)	3.54	(-0.02)

4-c.認知機能_精神活動

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	34	27.4%	35	28.2%	32	25.8%	35	28.2%
4	22	17.7%	36	29.0%	40	32.3%	33	26.6%
3	34	27.4%	23	18.5%	20	16.1%	24	19.4%
2	25	20.2%	22	17.7%	25	20.2%	25	20.2%
1	2	1.6%	1	0.8%				
無回答	7	5.6%	7	5.6%	7	5.6%	7	5.6%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=117	3.52		3.70	(+0.18)	3.68	(-0.03)	3.67	(-0.01)

4-d.周辺症状(複数回答)

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
A群_拒否	7	5.6%	4	3.2%	4	3.2%	4	3.2%
A群_感情	12	9.7%	6	4.8%	8	6.5%	6	4.8%
A群_興奮	5	4.0%	4	3.2%	2	1.6%	1	0.8%
A群_大声	7	5.6%	5	4.0%	2	1.6%	1	0.8%
A群_破壊	2	1.6%	2	1.6%	1	0.8%		0.0%
A群_投げる	1	0.8%	1	0.8%	1	0.8%		0.0%
B群_過食	1	0.8%	1	0.8%	1	0.8%		0.0%
B群_タンスの中身を出す		0.0%		0.0%	1	0.8%	1	0.8%
B群_徘徊	4	3.2%	3	2.4%	2	1.6%	2	1.6%
B群_昼間寝てばかり	9	7.3%	8	6.5%	12	9.7%	6	4.8%
B群_繰り返し聞く	6	4.8%	6	4.8%	11	8.9%	12	9.7%
B群_不適切な場所での排尿	1	0.8%	3	2.4%	6	4.8%	8	6.5%

5-a.食事_嚥下機能

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	52	41.9%	61	49.2%	63	50.8%	62	50.0%
4	30	24.2%	30	24.2%	27	21.8%	25	20.2%
3	15	12.1%	13	10.5%	15	12.1%	16	12.9%
2	14	11.3%	7	5.6%	7	5.6%	8	6.5%
1	3	2.4%	3	2.4%	2	1.6%	3	2.4%
無回答	10	8.1%	10	8.1%	10	8.1%	10	8.1%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=114	4.00		4.22	(+0.22)	4.25	(+0.03)	4.18	(-0.06)

5-b.食事_食事動作及び食事介助

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	67	54.0%	69	55.6%	63	50.8%	64	51.6%
4	25	20.2%	24	19.4%	30	24.2%	25	20.2%
3	15	12.1%	15	12.1%	14	11.3%	17	13.7%
2	7	5.6%	6	4.8%	8	6.5%	8	6.5%
1	2	1.6%	2	1.6%	1	0.8%	2	1.6%
無回答	8	6.5%	8	6.5%	8	6.5%	8	6.5%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=116	4.28		4.31	(+0.03)	4.26	(-0.05)	4.22	(-0.04)

5-c.食事形態(主食:複数回答)

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
米飯	45	36.3%	54	43.5%	54	43.5%	49	39.5%
軟飯	25	20.2%	20	16.1%	23	18.5%	23	18.5%
全粥	38	30.6%	30	24.2%	21	16.9%	18	14.5%
7分粥一重湯	1	0.8%		0.0%	1	0.8%		0.0%
その他	10	8.1%	8	6.5%	6	4.8%	2	1.6%

5-c.食事形態(副食:複数回答)

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
常菜	35	28.2%	38	30.6%	48	38.7%	43	34.7%
軟菜	12	9.7%	13	10.5%	18	14.5%	16	12.9%
きざみ	39	31.5%	37	29.8%	24	19.4%	22	17.7%
ミキサー	3	2.4%	1	0.8%	5	4.0%	3	2.4%
ムーンペースト	3	2.4%	1	0.8%	2	1.6%	2	1.6%
その他	26	21.0%	21	16.9%	9	7.3%	6	4.8%

6-a.排泄動作

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	20	16.1%	31	25.0%	30	24.2%	31	25.0%
4	31	25.0%	33	26.6%	33	26.6%	27	21.8%
3	27	21.8%	30	24.2%	23	18.5%	26	21.0%
2	34	27.4%	20	16.1%	26	21.0%	27	21.8%
1	4	3.2%	2	1.6%	4	3.2%	5	4.0%
無回答	8	6.5%	8	6.5%	8	6.5%	8	6.5%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=116	3.25		3.61	(+0.36)	3.51	(-0.10)	3.45	(-0.06)

6-b.補助具・器具の使用状況(複数回答)

	第1回(日中)		第1回(夜間)		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
ポータブルトイレの使用	8	6.5%	24	19.4%	30	24.2%	29	23.4%	28	22.6%
尿カテーテルの使用	3	2.4%	4	3.2%	4	3.2%	5	4.0%	4	3.2%
人工肛門の使用	1	0.8%	1	0.8%	3	2.4%	3	2.4%	3	2.4%
おむつの使用	32	25.8%	41	33.1%	39	31.5%	37	29.8%	31	25.0%

7-a.入浴動作

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	1	0.8%	1	0.8%				
4	6	4.8%	11	8.9%	4	3.2%	5	4.0%
3	79	63.7%	83	66.9%	83	66.9%	84	67.7%
2	26	21.0%	21	16.9%	21	16.9%	21	16.9%
1	4	3.2%			8	6.5%	6	4.8%
無回答	8	6.5%	8	6.5%	8	6.5%	8	6.5%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=116	2.78		2.93	(+0.16)	2.72	(-0.22)	2.76	(+0.04)

7-b.入浴手段(複数回答)

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
一般浴	45	36.3%	44	35.5%	38	30.6%	31	25.0%
介助浴	11	8.9%	28	22.6%	32	25.8%	25	20.2%
座っての機械浴	18	14.5%	33	26.6%	19	15.3%	19	15.3%
臥位での機械浴(特殊浴)	15	12.1%	9	7.3%	12	9.7%	9	7.3%

8-a.整容_口腔ケア

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	15	12.1%	26	21.0%	25	20.2%	25	20.2%
4	16	12.9%	20	16.1%	17	13.7%	16	12.9%
3	51	41.1%	49	39.5%	48	38.7%	47	37.9%
2	25	20.2%	14	11.3%	18	14.5%	17	13.7%
1	12	9.7%	10	8.1%	11	8.9%	14	11.3%
無回答	5	4.0%	5	4.0%	5	4.0%	5	4.0%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=119	2.97		3.32	(+0.34)	3.23	(-0.09)	3.18	(-0.05)

8-b. 整容_整容

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	2	1.6%	5	4.0%	7	5.6%	9	7.3%
4	34	27.4%	42	33.9%	42	33.9%	41	33.1%
3	44	35.5%	44	35.5%	39	31.5%	38	30.6%
2	21	16.9%	11	8.9%	10	8.1%	12	9.7%
1	16	12.9%	15	12.1%	19	15.3%	17	13.7%
無回答	7	5.6%	7	5.6%	7	5.6%	7	5.6%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=117	2.87		3.09	(+0.22)	3.07	(-0.03)	3.11	(+0.04)

8-c. 整容_衣服

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	9	7.3%	21	16.9%	21	16.9%	21	16.9%
4	28	22.6%	32	25.8%	32	25.8%	33	26.6%
3	35	28.2%	28	22.6%	26	21.0%	23	18.5%
2	31	25.0%	25	20.2%	28	22.6%	29	23.4%
1	14	11.3%	11	8.9%	10	8.1%	11	8.9%
無回答	7	5.6%	7	5.6%	7	5.6%	7	5.6%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=117	2.89		3.23	(+0.34)	3.22	(-0.01)	3.21	(-0.02)

9-a. 社会参加_余暇

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5			1	0.8%	3	2.4%	2	1.6%
4	7	5.6%	7	5.6%	7	5.6%	9	7.3%
3	65	52.4%	83	66.9%	71	57.3%	70	56.5%
2	26	21.0%	15	12.1%	19	15.3%	19	15.3%
1	16	12.9%	8	6.5%	14	11.3%	14	11.3%
無回答	10	8.1%	10	8.1%	10	8.1%	10	8.1%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=114	2.55		2.81	(+0.25)	2.70	(-0.11)	2.70	(+0.00)

9-b. 社会参加_交流

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	1	0.8%	3	2.4%	6	4.8%	8	6.5%
4	6	4.8%	9	7.3%	21	16.9%	20	16.1%
3	41	33.1%	51	41.1%	30	24.2%	30	24.2%
2	60	48.4%	45	36.3%	52	41.9%	50	40.3%
1	6	4.8%	6	4.8%	5	4.0%	6	4.8%
無回答	10	8.1%	10	8.1%	10	8.1%	10	8.1%
合計	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	124	100.0%
平均(前回比)n=114	2.44		2.63	(+0.19)	2.75	(+0.11)	2.77	(+0.03)

2. 日常関連動作 (IADL) 調査

IADL_食事機能

	第 1 回		第 2 回		第 3 回		第 4 回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5. 食事の準備を自分でしている	/	/	/	/	1	0.8%	1	0.8%
4. 食事の準備を手伝っている					3	2.4%	4	3.2%
3. 後片付けを自分でしている					1	0.8%	3	2.4%
2. 後片付けを手伝っている					2	1.6%	1	0.8%
1. 食事の準備や後片付けは行っていない					112	90.3%	110	88.7%
無回答					5	4.0%	5	4.0%
合計					124	100.0%	124	100.0%

IADL_生活機能_買い物

	第 1 回		第 2 回		第 3 回		第 4 回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
3. 買い物は自分で行っている	/	/	/	/	1	0.8%	1	0.8%
2. 買い物は家族と一緒にしている					4	3.2%	7	5.6%
1. 買い物は自分で行っていない					114	91.9%	111	89.5%
無回答					5	4.0%	5	4.0%
合計					124	100.0%	124	100.0%

IADL_生活機能_掃除・洗濯

	第 1 回		第 2 回		第 3 回		第 4 回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
3. 掃除・洗濯を自分でしている	/	/	/	/	2	1.6%	2	1.6%
2. 掃除・洗濯を手伝っている					6	4.8%	5	4.0%
1. 掃除・洗濯を自分で行っていない					111	89.5%	112	90.3%
無回答					5	4.0%	5	4.0%
合計					124	100.0%	124	100.0%

IADL_生活機能_ゴミ出し・分別

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
3. ゴミ出しは自分でやっている	/	/	/	/	2	1.6%	3	2.4%
2. ゴミの分別は自分でやっている					6	4.8%	5	4.0%
1. ゴミの分別は自分でやっていない					111	89.5%	111	89.5%
無回答					5	4.0%	5	4.0%
合計					124	100.0%	124	100.0%

IADL_自己管理_お金・通帳管理

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
3. お金・通帳の管理は自分でやっている	/	/	/	/	5	4.0%	4	3.2%
2. お小遣いは自分で管理している					17	13.7%	17	13.7%
1. お金の管理は自分でしていない					97	78.2%	98	79.0%
無回答					5	4.0%	5	4.0%
合計					124	100.0%	124	100.0%

IADL_自己管理_電話や来客対応

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
3. 電話や来客は自分で対応している	/	/	/	/	8	6.5%	10	8.1%
2. 電話や来客は家族がいないときは対応					13	10.5%	12	9.7%
1. 電話や来客は自分で対応していない					98	79.0%	97	78.2%
無回答					5	4.0%	5	4.0%
合計					124	100.0%	124	100.0%

IADL_自己管理_郵便・書類の管理

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
3. 郵便・書類は自分で管理している	/	/	/	/	1	0.8%	2	1.6%
2. 郵便・書類の一部は自分で管理している					18	14.5%	16	12.9%
1. 郵便・書類は自分で管理していない					100	80.6%	101	81.5%
無回答					5	4.0%	5	4.0%
合計					124	100.0%	124	100.0%

IADL_自己管理_火の元の管理

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
3. 火の元は自分で管理している	/	/	/	/	4	3.2%	4	3.2%
2. 火の元は一部自分で管理している					6	4.8%	7	5.6%
1. 火の元は自分で管理していない					109	87.9%	108	87.1%
無回答					5	4.0%	5	4.0%
合計					124	100.0%	124	100.0%

IADL_社会機能_交通手段の利用

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
3. 一人で交通手段を使って外出している	/	/	/	/	1	0.8%	1	0.8%
2. 介助者と交通手段を使って外出している					26	21.0%	24	19.4%
1. 交通手段は利用していない					92	74.2%	94	75.8%
無回答					5	4.0%	5	4.0%
合計					124	100.0%	124	100.0%

IADL_社会機能_散歩などの外出

	第1回		第2回		第3回		第4回	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
3. 一人で散歩などに出掛けている	/	/	/	/	4	3.2%	4	3.2%
2. 介助者と一緒に散歩などに出掛けている					19	15.3%	23	18.5%
1. 散歩などには出掛けない					96	77.4%	92	74.2%
無回答					5	4.0%	5	4.0%
合計					124	100.0%	124	100.0%

3. [03-2]居宅介護支援専門員調査

問 1-(2)性別

	度数	%
男性	28	24.8%
女性	84	74.3%
無回答	1	0.9%
合計	113	100.0%

問 1-(4)介護支援専門員としての業務経験年数

	度数	%
1年未満	3	2.7%
1～3年	27	23.9%
4～6年	32	28.3%
7～10年	29	25.7%
11～15年	44	38.9%
無回答	1	0.9%
合計	113	100.0%

問 1-(5)現在の勤務先（事業所の種類）

	度数	%
居宅介護支援事業所(特定事業所)	79	69.9%
居宅介護支援事業所(特定事業所以外)	22	19.5%
その他	2	1.8%
無回答	10	8.8%
合計	113	100.0%

問 1-(6)11月分の担当件数

	度数	%
10件以下	12	10.6%
11～20件	7	6.2%
21～30件	31	27.4%
31～40件	58	51.3%
41件以上	5	4.4%
無回答	0	0.0%
合計	113	100.0%

問 1-(7)介護老人保健施設での勤務経験

	度数	%
あり	39	34.5%
なし	72	63.7%
無回答	2	1.8%
合計	113	100.0%

問 1-(8)特別養護老人ホームでの勤務経験

	度数	%
あり	23	20.4%
なし	88	77.9%
無回答	2	1.8%
合計	113	100.0%

問 2.現在利用しているアセスメント手法

	度数	%
インターライ方式	13	11.5%
包括的自立支援プログラム	8	7.1%
居宅サービス計画	47	41.6%
生活7領域から考える自立支援アセスメント・ケアプラン	1	0.9%
ケアマネジメント実践記録様式	1	0.9%
その他	39	34.5%
上記の併用により実施	2	1.8%
無回答	2	1.8%
合計	113	100.0%

問 3-(1)老健施設入所時の情報提供(複数回答)

	度数	%
文書により情報提供している	82	72.6%
電話により情報提供している	58	51.3%
施設に行って情報提供している	51	45.1%
施設スタッフと利用者宅を訪問	25	22.1%
施設スタッフが参加したカンファレンスを実施	20	17.7%
その他	5	4.4%
上記に該当なし	8	7.1%

問 3-(2)老健施設退所時の情報提供 (複数回答)

	度数	%
文書で情報提供を受けている	78	69.0%
電話で情報提供を受けている	46	40.7%
施設に行き情報収集をしている(提供を受けている)	78	69.0%
施設スタッフと利用者宅を訪問	45	39.8%
施設でのカンファレンスに参加	75	66.4%
その他	2	1.8%
上記に該当なし	1	0.9%

問 3-(3)老健施設退所時に情報提供を受けた専門職の種類(複数回答)

	度数	%
医師	36	31.9%
看護職員	89	78.8%
リハフタッフ (PT・OT・ST)	94	83.2%
介護職員	85	75.2%
その他	27	23.9%
専門職からの情報は受けていない	5	4.4%

問 4-(1)以前から R4 システムを知っていたか

	度数	%
知っていた	51	45.1%
知らなかった	59	52.2%
無回答	3	2.7%
合計	113	100.0%

問 4-(2)在宅復帰にあたり施設側から示された情報伝達について

	「情報提供書類」に対する評価		「利用者状態像」に対する評価	
	度数	%	度数	%
よい	53	46.9%	55	48.7%
どちらかといえばよい	37	32.7%	39	34.5%
どちらでもない	13	11.5%	12	10.6%
どちらかといえば悪い	1	0.9%		
悪い			1.0	0.9%
無回答	9	8.0%	6	5.3%
合計	113	100.0%	113	100.0%

問 4-(3)在宅における ICF ステージングを参考にしたケアマネジメントを行うことについての評価

	アセスメントを行うことの評価		「行っていること」の評価		「出来ること」の評価		在宅ケアプランの立案	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よい	42	37.2%	50	44.2%	45	39.8%	35	31.0%
どちらかといえばよい	44	38.9%	39	34.5%	43	38.1%	49	43.4%
どちらでもない	19	16.8%	17	15.0%	15	13.3%	18	15.9%
どちらかといえば悪い	2	1.8%	1	0.9%	2	1.8%	3	2.7%
悪い								
無回答	6	5.3%	6	5.3%	8	7.1%	8	7.1%
合計	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%

問 4-(4)ICF ステージング各調査項目の評価

	①基本動作		②歩行移動		③オリエンテーション		④コミュニケーション	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よい	53	46.9%	47	41.6%	44	38.9%	45	39.8%
どちらかといえばよい	40	35.4%	44	38.9%	47	41.6%	44	38.9%
どちらでもない	13	11.5%	13	11.5%	16	14.2%	18	15.9%
どちらかといえば悪い	2	1.8%	4	3.5%	1	0.9%	1	0.9%
悪い								
無回答	5	4.4%	5	4.4%	5	4.4%	5	4.4%
合計	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%

問 4-(4)ICF ステージング各調査項目の評価

	⑤精神活動		⑥嚥下機能		⑦食事動作		⑧排泄動作	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よい	39	34.5%	47	41.6%	55	48.7%	49	43.4%
どちらかといえばよい	44	38.9%	41	36.3%	39	34.5%	40	35.4%
どちらでもない	23	20.4%	19	16.8%	13	11.5%	17	15.0%
どちらかといえば悪い	2	1.8%	1	0.9%	1	0.9%	2	1.8%
悪い								
無回答	5	4.4%	5	4.4%	5	4.4%	5	4.4%
合計	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%

問 4-(4)ICF ステージング各調査項目の評価

	⑨入浴動作		⑩口腔ケア		⑪整容		⑫衣服	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
よい	47	41.6%	53	46.9%	48	42.5%	45	39.8%
どちらかといえばよい	44	38.9%	42	37.2%	45	39.8%	43	38.1%
どちらでもない	16	14.2%	12	10.6%	14	12.4%	18	15.9%
どちらかといえば悪い	1	0.9%	1	0.9%	1	0.9%	2	1.8%
悪い								
無回答	5	4.4%	5	4.4%	5	4.4%	5	4.4%
合計	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%

問 4-(4)ICF ステージング各調査項目の評価

	⑬余暇		⑭交流		⑮周辺の 12 項目	
	度数	%	度数	%	度数	%
よい	41	36.3%	43	38.1%	41	36.3%
どちらかといえばよい	43	38.1%	44	38.9%	42	37.2%
どちらでもない	23	20.4%	21	18.6%	19	16.8%
どちらかといえば悪い	1	0.9%			3	2.7%
悪い						
無回答	5	4.4%	5	4.4%	8	7.1%
合計	113	100.0%	113	100.0%	113	100.0%

問 4-(5)①現在利用している帳票と比べた過不足

	度数	%
多かった	19	16.8
少なかった	64	56.6
その他	25	22.1
無回答	5	4.4
合計	113	100.0

問 4-(5)②ICF ステージングのレベル判断は難しかったか

	度数	%
改善すべきと思った	21	18.6
改善の必要はないと思った	54	47.8
その他	30	26.5
無回答	8	7.1
合計	113	100.0

問 4-(5)③ICF ステージングを使用することによる変化(複数回答)

	度数	%
1)能力が把握しやすかった	72	63.7%
2)能力の変化が把握しやすかった	40	35.4%
3)生活状況が把握しやすかった	46	40.7%
4)生活状況の変化が把握しやすかった	25	22.1%
5)課題の整理に役立った	34	30.1%
6)生活目標の設定に役立った	23	20.4%
7)利用者・家族からの情報収集に役立った	17	15.0%
8)利用者や家族への説明に役立った	9	8.0%
9)サービス事業者への説明に役立った	12	10.6%
10)自身が自立支援の視点により立ちやすかった	24	21.2%
11)自立支援に向けたサービス内容選択に役立った	15	13.3%
12)上記に該当なし	7	6.2%

資料編

・アンケート調査実施要綱

・アンケート調査票

平成 25 年度老人保健健康増進等事業
施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続
するための要因に関する調査研究事業
([03] 在宅生活継続要因施設調査)
～ 実施要綱 ～

1. 事業の目的

本事業は、

①在宅復帰を目指す介護老人保健施設(以下、老健施設)利用者において、在宅復帰後も良好な居宅生活が維持できるよう、入所中から利用者の状態像や、望ましいサービス利用形態などを、居宅の介護支援専門員と連携する方策を検討すること

②在宅復帰後の一定期間、老健施設入所中と共通の状態像評価手法を用いたうえでケアマネジメントを行うことにより、在宅生活開始後の状態像の変化を観察するとともに、退所時におけるケアの目標をより具体的に、かつ在宅維持が可能な目標とすることで、居宅ケアプランの質の向上につなげること

の二つの目的のため、公益社団法人全国老人保健施設協会(以下、全老健)は一般社団法人日本介護支援専門員協会との連携・協力のもとに調査を実施いたします。

なお、本事業では収集した情報につきましては、今後の老健施設と居宅との連携方策の検討やよりよいアセスメント手法の確立などにつなげるために、協力者の個人名暗号化等の対策を行い、個人情報の保護を遵守したうえで、一部、全老健が実施する別な調査等で使用する可能性がございます。

本事業の趣旨をご理解いただき、ご協力の程よろしくお願い致します。

2. 事業実施施設

新全老健版ケアマネジメント方式～R4 システム～を導入頂いている老健施設及び ICF ステージングにおいてA-3 シートをご利用されている施設、全国で約 150 の施設にお願いしております。

3. 事業対象者

調査は① [03-1] 退所者生活機能調査と、② [03-2] 居宅介護支援専門員調査の二つに分かれます。

① [03-1] 退所者生活機能調査は、上記施設を平成 25 年 12 月～翌 1 月初旬に貴老健施設を退所される方全員を対象とします。

② [03-2] 居宅介護支援専門員調査は、①の対象者の退所後のケアプランを作成する居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象としています。

なお、①の実施に当たっては、添付の「同意書」等を用い、対象者及びそのご家族に本事業の趣旨等をご説明いただくとともに、同意を得て下さい。

同意書は、貴施設にて取りまとめていただき、本事業終了後、全老健へご郵送下さい。

(別添、施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための要因に関する調査研究事業 同意書在中の返信用封筒をご利用下さい)

(注) 同意書の取り付けについて

本事業は、利用者ご本人の情報を収集することになりますので、お手数でも添付の「同意書」の書式をご利用頂き、必ず協力同意書の取り付けを行って頂きますようお願い致します。

また、調査対象者が認知症等により有効なインフォームド・コンセントを与えることができないと客観的に判断される場合には、代諾者（当該調査対象者の法定代理人等、調査対象者の意思及び利益を代弁できると考えられる方）の同意と署名により、調査への同意取り付けに替えることが可能です。

今回の結果は協力者の個人名暗号化等の対策を行い、個人情報の保護を遵守したうえで、一部、全老健が実施する別な調査等で使用する可能性がございます。調査データについて、個人が特定されるような公表は一切致しませんので、調査対象者並びに調査実施者のプライバシーは守られます。

なお、途中で調査への協力を撤回されたい場合は、いつでも同意を取り消すことができます。この場合は、添付ファイルにあります「同意撤回書」にご署名頂いたうえ、ご一報ください。

☆ 調査実施期間中は、調査対象者に間違いが起きないように調査票にご利用者の氏名をご記入頂きますが、調査終了後、全老健へご返信頂く際には、ご利用者の氏名は黒塗り等で目隠しを行い氏名がわからないようにご配慮ください。

☆ 調査票には、全老健には調査対象者が特定できないように「番号:例(1. 2. (1)、(2)、①、②等)」にて表記いただきます。

ただし、番号記載のエラーが発生した場合にも判別できるように、「対比表」にお名前をご記入(入力)頂き、貴施設にて保管下さいますよう、宜しくお願いいたします。

(本調査で知りえた個人情報は、調査の目的以外に使用いたしません。)

記載例

調査票標記		お名前
①	→	老健 太郎

4. 事業の具体的内容と実施方法

1. 調査票の区分について

今年度、厚生労働省の老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)の追加交付を受けて実施する調査研究事業につきまして、会員の皆様に効率的にご協力いただけるよう、複数の調査を通して調査項目の重複が無いように調査票を整理いたしました。なお、今回お送りしている調査票は以下の3つです。

[01] 地域における介護老人保健施設の役割に関する調査研究事業

[02] 介護老人保健施設の管理医師の有効活用による医療と介護の連携の促進に関する調査研究事業

[03] 施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための要因に関する調査研究事業

本事業の基本施設データは今年度の調査事業共通の「**[01] 老健施設の役割施設調査票**」を使用いたします。本事業の調査票はこの他、老健施設の介護支援専門員と居宅の介護支援専門員にご回答いただく「**[03-1] 退所者生活機能調査票**」、ICF ステージングを利用した居宅介護支援専門員にご回答いただく「**[03-2] 居宅介護支援専門員調査票**」により構成されています。

2. 調査票の記入者および協力依頼について

① [03-1] 退所者生活機能調査

- 調査は全4回実施します。第1回及び第2回調査は老健施設の介護支援専門員が、第3回及び第4回調査は居宅の介護支援専門員が実施します。
- 第1回調査は、施設入所時の状況を、過去のアセスメント記録(A-3 シート)から転記してください。また、第2回は、施設退所前に実施してください。

↓【施設側で記入した調査票を居宅の介護支援専門員にお渡しください】

↓ 調査依頼をした居宅の介護支援専門員様の氏名・所属先等を全老健に FAX(03-3455-4179)でお知らせください。
(居宅の介護支援専門員 調査協力依頼先リスト使用)

- 第3回調査は施設退所後1週間以内に、また第4回は退所1か月後のアセスメント時に行っていただくよう、居宅の介護支援専門員に協力依頼してください。なお、居宅の介護支援専門員はICFステージングによる生活機能の調査に不慣れなことも想定されるため、第3回調査実施時に施設側のサポート(施設の介護支援専門員が第3回調査時に立ち会い、記入方法を指導する等)をお願いいたします。

② [03-2] 居宅介護支援専門員調査

- 上記第4回調査終了後に、ICFステージングに関する感想や意見をご記入いただくアンケート調査です。設問により○をつけて回答いただくものと、直接ご記入いただくものがあります。

【居宅の介護支援専門員様へのご依頼について】

本調査票を居宅の介護支援専門員等へ郵送するために、宛先が印字されていない角 2 封筒(切手貼り付け済)を同封しております。調査票を郵送される場合は、こちらをお使ください。なお、居宅の介護支援専門員様へお渡し頂くものは以下の通りです。

- (1) 施設から居宅の介護支援専門員様への依頼状※
- (2) [03-1]退所者生活機能調査票(冊子になっています)
- (3) 返信用の角 2 封筒(「施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための要因に関する調査研究事業 調査票在中」と印字されている封筒)

※(1)の依頼状の雛形を本要綱の4ページに掲載いたします。雛形は当協会 HP 会員専用サイトよりダウンロード可能となっておりますので、よろしければお使ください。

会員専用サイト:<http://www.roken.or.jp/member/>

(閲覧にはユーザー名とパスワードが必要です。ご不明な場合は当協会へご連絡ください。)

5. 記録用紙等の提出

ご記入いただいた①及び②の調査票は、居宅の介護支援専門員から直接全老健宛てにご返送いただきます。

同封の返信用封筒で、平成26年2月17日(月)までにご郵送くださるよう、ご指示をお願いいたします。

なお、調査票8ページのご利用者様の氏名には、黒塗り等目隠しをして、ご返送下さい。

6. 施設から調査協力居宅介護支援事業所への依頼状（雛形）

平成25年 月 日	
調査協力指定居宅介護支援事業所 ご担当者 御中	介護老人保健施設〇〇〇〇 施設長〇〇〇〇
<u>施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための要因に関する調査研究事業</u> <u>「在宅生活継続要因施設調査」への御協力をお願い</u>	
<p>平素より当施設の運営に際しましては、格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、本年度、公益社団法人全国老人保健施設協会（以下、全老健）では厚生労働省の老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）の追加交付を受け、一般社団法人日本介護支援専門員協会との連携・協力のもと、標記の調査研究事業を実施いたします。</p> <p>当施設といたしましても、本調査研究事業の趣旨を鑑み、事業に協力することといたしましたが、アンケート調査は、当施設を平成25年12月から翌1月初旬に退所される方を対象とした「退所者生活機能調査」と、施設退所後の在宅生活を支える貴事業所の介護支援専門員を対象とした「居宅介護支援専門員調査」の二種類であることから、貴事業所におかれましても、アンケート調査への御協力をお願いいたしたく考えております。</p> <p>つきましては、ご多用の折大変お手数をおかけしますが、同調査の意義を十分理解頂き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。</p>	
<p>【本件照会先】 介護老人老人施設 〇〇〇〇 担当（〇〇、〇〇） 電話：xx - xxxx - xxxx / Fax：xx - xxxx - xxxx</p>	

上記雛形は、会員専用サイト：<http://www.roken.or.jp/member/>からダウンロード可能です。
(閲覧にはユーザー名とパスワードが必要です。ご不明な場合は当協会へご連絡ください。)

7. 問い合わせ先

公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部 業務第二課

〒105-0014 東京都港区芝 2-1-28 成旺ビル 7階

TEL:03-3455-4165 FAX:03-3455-4172

ホームページ：<http://www.roken.or.jp/> メールアドレス：info@roken.or.jp

ご参考：調査の流れ

【介護老人保健施設】

施設の介護支援専門員が調査を実施



<第1回調査>

入所時の状況を転写



<第2回調査>

退所時(退所前)の状況を記入



退 所

調査協力依頼先リストを全老健へ
FAX (03-3455-4179)

<第3回調査>

退所一週間以内の状況を記入



<第4回調査>

退所一ヶ月後の状況を記入



居宅の介護支援専門員が調査を実施

【利用者の御自宅など】



<居宅介護支援専門員調査>

ICF ステージングについての感想等をご記入ください

介護支援専門員調査

一緒にお渡しいたしました返信用封筒に調査票を入れ全老健までご返送ください。

調査票8ページのご利用者様の氏名は、黒塗り等目隠しをしてください。

御協力ありがとうございます

平成25年度老人保健健康増進等事業

施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続する
ための要因に関する調査研究事業

[03-1]

退所者生活機能調査票

平成25年12月

公益社団法人全国老人保健施設協会

～ 目 次 ～

●アンケート調査実施要綱	3
ご参考：調査の流れ.....	4
 【老健施設および居宅の介護支援専門員が記入】	
●[O3-1]退所者生活機能調査 及び [O3-2]居宅介護支援専門員調査 概略.....	5
 【老健施設が記入】	
●調査基本共通項目.....	7
(老健施設及び居宅の介護支援専門員がそれぞれ記入)	
●第1回目調査	9
(老健施設の介護支援専門員が記入)	
●第2回目調査	13
(老健施設の介護支援専門員が記入)	
 【居宅の介護支援専門員が記入】	
●第3回目調査	29
(居宅の介護支援専門員が記入)	
●第4回目調査	47
(居宅の介護支援専門員が記入)	
●[O3-2]居宅介護支援専門員調査	65
(居宅の介護支援専門員が記入)	

平成 25 年度老人保健健康増進等事業
施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための
要因に関する調査研究事業
～ アンケート調査実施要綱 ～

1. 調査の種類と対象者

調査は①【03-1】退所者生活機能調査と、②【03-2】居宅介護支援専門員調査の二つに分かれます。

- ①【03-1】退所者生活機能調査は、老健施設を平成 25 年 12 月～翌 1 月初旬に退所される方を対象とします。
- ②【03-2】居宅介護支援専門員調査は、①の対象者の退所後のケアプランを作成する居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象としています。

2. 調査票の記入者および協力依頼について

①【03-1】退所者生活機能調査

- 調査は全 4 回実施します。第 1 回及び第 2 回調査は老健施設の介護支援専門員が、第 3 回及び第 4 回調査は居宅の介護支援専門員が実施します。
- 第 2 回まで老健施設において記入した調査票をお渡しいたしますので、第 3 回及び第 4 回調査を、同じ調査票を用いて実施してください。
- 第 3 回調査は施設退所後 1 週間以内に、また第 4 回は退所 1 か月後のアセスメント時に行ってください。
- 調査票の記載方法がわからない場合は、下記「4. 問い合わせ先」までご相談ください。

②【03-2】居宅介護支援専門員調査

- 上記第 4 回調査終了後に、ICF ステージングに関する感想や意見をご記入いただくアンケート調査です。設問により○をつけて回答いただくものと、直接ご記入いただくものがあります。

3. 記録用紙等の提出

ご記入いただいた①及び②の調査票は、一緒にお渡しいたしました封筒に入れ、直接全老健宛てにご返送下さい。なお、平成 26 年 2 月 17 日(月)までにご郵送くださるようお願いいたします。

4. 問い合わせ先

公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部 業務第二課

〒105-0014 東京都港区芝 2-1-28 成旺ビル 7 階

TEL : 03-3455-4165 FAX : 03-3455-4172

ホームページ : <http://www.roken.or.jp/> メールアドレス : info@roken.or.jp

ご参考：調査の流れ

【介護老人保健施設】

施設の介護支援専門員が調査を実施



<第1回調査>

入所時の状況を転写



<第2回調査>

退所時(退所前)の状況を記入

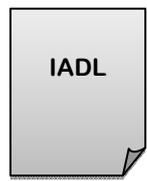


退 所

調査協力依頼先リストを全老健へ
FAX (03-3455-4179)

<第3回調査>

退所一週間以内の状況を記入



<第4回調査>

退所一ヶ月後の状況を記入



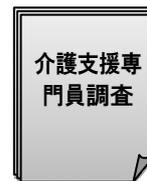
居宅の介護支援専門員が調査を実施

【利用者の御自宅など】



<居宅介護支援専門員調査>

ICF ステージングについての感想等をご記入ください



一緒にお渡しいたしました
返信用封筒に調査票を入れ
全老健までご返送ください。

調査票8ページのご利用者様の
氏名は、黒塗り等目隠しを
してください。

御協力ありがとうございます

平成25年度老人保健健康増進等補助金事業
「施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための要因に関する調査研究事業」
【03-1】退所者生活機能調査 及び 【03-2】居宅介護支援専門員調査

◆本事業では、2種類の調査の実施をお願いいたします。

<p>[03-1]退所者生活機能調査 (ICFステージング) ⇒7ページから63ページ</p>	<p>介護老人保健施設（以下、老健施設）から平成25年12月～翌1月初旬に退所された利用者の方を対象とした調査で、生活機能についてのアセスメントをICFステージングを用いて行います。</p> <p>調査は全4回実施し、そのうち第1回及び第2回を老健施設により、第3回及び第4回を居宅の介護支援専門員により実施していただきます。</p>
<p>[03-2] 居宅介護支援専門員調査 ⇒65ページから68ページ</p>	<p>居宅の介護支援専門員を対象とした調査で、利用者様について上記【03-1】退所者生活機能調査（ICFステージング）を実施していただいた感想等をお答えいただけます。</p>

◆調査の実施時期は以下のとおりです。

<p>[03-1]退所者生活機能調査 (ICFステージング)</p>	<p>第1回 調査対象「利用者」の老健施設入所時（老健施設にて実施） 第2回 調査対象「利用者」の老健施設退所時（老健施設にて実施）</p> <p>第3回 調査対象「利用者」の退所後（退所後一週間以内） ※第3回調査は居宅の介護支援専門員により実施していただきますが、記入方法につき老健施設の介護支援専門員がサポートいたします。 第4回 調査対象「利用者」の退所後（退所後一ヶ月程度）</p>
<p>[03-2] 居宅介護支援専門員調査</p>	<p>上記「第4回調査」実施後に、ご回答をお願いします。</p>

◆調査の実施方法は以下のとおりです。

<p>[03-1]退所者生活機能調査 (ICFステージング)</p>	<p>「2. 基本動作」から「9. 社会参加－交流」までのそれぞれについて、ご利用者様の状態に最も近いものを、(1)～(5)のステージの中からお選びいただき、左側の太枠内に○をつけて下さい。</p>
<p>[03-2] 居宅介護支援専門員調査</p>	<p>枠内に必要事項をご記入いただく設問と、選択肢に○をお付けいただく設問があります。（詳しくは調査票の指示に従ってください）</p>

◆調査に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

<p>公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部第二課 中島・山本・青山</p> <p>〒105-0014 東京都港区芝2-1-28 成旺ビル7階 TEL：03-3455-4165 FAX：03-3455-4172 ホームページ：http://www.roken.or.jp/ メールアドレス：info@roken.or.jp</p>
--

◆ご記入いただきました調査票は、一緒にお渡しいたしました封筒にてご返送ください。

調査基本共通項目

施設の介護支援専門員、
および居宅側の介護支援専門員の方が、
それぞれ所定の項目にご記入ください

◆ご利用者様、調査票にご記入いただく方のお名前等をお知らせください

◆介護老人保健施設の介護支援専門員がご記入ください。

利用者	氏名	
	ID	
退所前 施設	施設名	
	全国老人保健施設協会 会員番号	※調査実施対象者等対比表の番号をご記入ください。
	担当介護支援専門員名	※会員番号が不明の場合、この欄は記入頂かなくても結構です。

◆居宅側の介護支援専門員がご記入ください。

居宅介護 支援	事業所名	
	住所	
	電話番号	
	担当介護支援専門員	

全老健へこの調査票をご返送頂く際には、ご面倒でもご利用者様の氏名を黒塗り等して、わからないようにしていただきますようお願いいたします。

第 1 回目調査

○調査対象利用者の老健施設入所時ご記入ください

○老健施設の介護支援専門員がご記入ください

※第1回目調査（調査対象「利用者」の入所時の状況調査）

この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●調査対象「利用者」の入所時の「A-3シート」から以下の赤枠内のみを転記してください。



この調査票に転記した日 平成 年 月 日

A-3：生活機能（ICF）アセスメント		利用者氏名		様	要介護度	障害自立度	
		ID：				認知症自立度	
入所時		ヶ月後の状態		入所日：		評価日：	
	レベル 図等	区分	特記事項 (器具・補助具の状況及びリスク等)		レベル 図等	区分	特記事項 (器具・補助具の状況及びリスク等)
基本動作				食事動作			
歩行動作				食事形態			【主食】 【副食】 【水分】 【補助具】
移動手段	1. T字杖の利用 2. 装具（短下肢装具等） 3. 歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用 4. しがみつき歩行器の利用（サークル歩行） 5. 車椅子の利用 6. リクライニング式車椅子の利用 7. 介助者や付添いの必要			排泄動作			【療養食】
	a.オリエンテーション			排泄の形態	日中：	夜間：	
認知機能	b.コミュニケーション			尿意	尿意：	便意：	
	c.精神活動			入浴動作			
	d.周辺症状			入浴手段			
	A群 拒否 感情 興奮 大声 破壊 投げる 合計数：			a.口腔ケア			
B群 過食 タンズ 徘徊 昼間寝てばかり 繰り返し聞く 不適切な場所での排尿 合計数：			b.整容				
その他周辺症状			c.衣服				
嚥下機能			【歯】	整容			
				余暇			
				交流			
入所後早期訪問に情報（在宅環境の状況） 末・訪問日：				その他の特記事項			

第2回目調査

○調査対象利用者の老健施設退所時ご記入ください

○老健施設の介護支援専門員がご記入ください

◆利用者様の調査時点の要介護度等についてご記入ください。

本調査の記入日	平成 年 月 日
利用者の状況を調査した日（もしくはその期間）	平成 年 月 日 ～平成 年 月 日
要介護度	
障害自立度	
認知症自立度	
備考	

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

2. 基本動作

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	両足での立位の保持を行っている。		5
立位の保持	つかまらずに一定の時間立位を保つこと。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		4	立位の保持は行っていないが、座位での乗り移りは行っている。		4
座位での乗り移り	車椅子などからベッドへ移動する時のように、ある面に座った状態から、同等あるいは異なる高さの他の座面へと移動すること。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		3	座位での乗り移りは行っていないが、座位(端座位)の保持は行っている。		3
座位(端座位)の保持	ベッド等に、背もたれもなく“つかまらない”で、安定して座っていること。(端座位)	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		2	座位(端座位)の保持は行っていないが、寝返りは行っている。		2
寝返り	寝返りをする事(つかまらず・つかまらないに関わらず)。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		1	寝返りは行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

3-a. 歩行・移動

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	公共交通機関等を利用した外出を行っている。		5
外出状況	公共交通機関（バス・JR・飛行機等）を利用して外出する（杖等の補助具の使用の有無は問わない）。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		4	公共交通機関等を利用した外出は行っていないが、手すりに頼らないで安定した階段の昇り降りを行っている。		3
昇り降り	階段を5段以上“手すりに頼らず昇り降りすること”。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		3	手すりに頼らない安定した階段の昇り降りは行っていないが、平らな場所での安定した歩行を行っている。		2
安定した歩行	安定した歩行をすること（杖と装具の双方を用いてもかまわない）。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		2	安定した歩行は行っていないが、施設内の移動は行っている。		1
施設内での移動	施設内で居室から別の部屋へと移動すること（車椅子など移動手段は問わない）。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		1	施設内の移動を行っていない。		

3-b. 移動手段（下記のうち、利用あるものに○）

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. T字杖の利用 | 5. 車椅子の利用 |
| 2. 装具（短下肢装具等） | 6. リクライニング式車椅子の利用 |
| 3. 歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用 | 7. 介助者や付添いの必要 |
| 4. しがみつき歩行器の利用（サークル歩行） | |

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

4-a. 認知機能～オリエンテーション（見当識）



		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	年月日がわかる。		5
年月日	年月日がわかるか。 (±1日の誤差)	わかる	↑		4
		わからない	↓		
		4	年月日はわからないが、現在いる場所の種類はわかる。		
場所の名称	現在いる場所の、種類がわかるか。	わかる	↑		3
		わからない	↓		
		3	場所の名称や種類はわからないが、その場にいる人が誰かわかる。		
他者に関する見当識	その場にいる人がだれかわかるか（例えば家族か、職員か、が判れば可）。	わかる	↑		2
		わからない	↓		
		2	その場にいる人が誰かわからないが、自分の名前はわかる。		
自分の名前	自分の名前がわかるか。	わかる	↑		1
		わからない	↓		
		1	自分の名前がわからない。		

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

4-b. 認知機能～コミュニケーション



		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	複雑な人間関係を保っている。		5
複雑な人間関係の保持	様々な状況で、他者を理解し、他者が不快にならないように感情や衝動を抑え、常識に基づいて人間関係を保つとすること。 (例) 普通の人間関係。	保っている	↑		4
		保っていない	↓		
		4	複雑な人間関係は保っていないが、書き言葉は理解している。		4
書き言葉の受容	書き言葉のメッセージを読みとり、理解している。	理解している	↑		
		理解していない	↓		
		3	書き言葉は理解していないが日常会話は行っている。		3
日常会話	1対1で“違和感のない（適切でつじつまのあった）”対話や意見交換をすること。 (例) 日常の当たり前の会話；友人関係、日常生活、季節等。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		2	日常会話は行っていないが、話し言葉は理解している。		2
話し言葉の理解	スタッフや家族の話し言葉（音声言語）を理解すること。 (例) 例示の理解。	理解している	↑		1
		理解していない	↓		
		1	話し言葉の理解はできない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

4-c. 認知機能～精神活動

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	時間管理ができる		5
時間管理	現在の時刻がわかり、かつ一時間後に何を行なうか理解し、普段から自分で管理している。	できる	↑		
		できない	↓		
		4	時間管理はできないが、簡単な算術計算はできる。		4
簡単な算術計算	7+8、6+5などの一桁同士の単純な加算ができるか。※おおむね7割程度正解すれば、できると判断する。	できる	↑		
		できない	↓		
		3	簡単な算術計算はできないが、記憶の再生はできる。		3
長期記憶	過去の自伝的な記憶について正しく、再生することができるか。	できる	↑		
		できない	↓		
		2	記憶の再生はできないが、意識混濁はない。		2
意識状態	調査前24時間以内の起きていた時間帯に意識の混濁があったか。	なかった	↑		
		あった	↓		
		1	意識の混濁があった。		1

4-d. 周辺症状（症状がみられる場合には○）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 世話を拒否する | 7. 食べ過ぎる |
| 2. 不適切に泣いたり笑ったりする | 8. タンスの中身を全部出す |
| 3. 興奮して手足を動かす | 9. 日中屋外や屋内をうろつきまわる |
| 4. 理由なく金切り声をあげる | 10. 昼間、寝てばかりいる |
| 5. 衣服や器物を破壊する | 11. 同じことを何度も聞く |
| 6. 食物を投げる | 12. 尿失禁する |

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

5-a. 食事～嚥下機能



		ステージ	状態	状態のイメージ	
咬断 (固いもの)	肉などを含む普通の食事を噛んで食べる。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
吸引	ストロー・吸い飲み等を使用して、水分・流動物をむせずに口腔内に吸引すること。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
嚥下 (固形物)	噛んだ（口内でつぶした）あるいは柔らかくした食べ物（普通食、粥食、軟食等）を、ノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
嚥下 (嚥下食)	嚥下をしやすいように処理した食べ物（ペースト食やゼリー食）をノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		1	嚥下食の嚥下を行っていない。 (食べ物の嚥下を行っていない)		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

5-b. 食事～食事動作及び食事介助



		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行っている。		5
食べること	提供された食べ物を、箸やフォーク等を使って、食べこぼしなく上手に食べること。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		4	箸やフォークを使って上手に食べることは行っていないが、食べこぼししながらも、何とか自分で食べることを行っている。		4
食べこぼし	提供された食べ物を、“食べこぼしはあるが”、何とか自分で食べること。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		3	自分で食べることを行っていないが、食事の際に特別なセッティングをすれば自分で食べることを行っている。		3
食事の際の特別なセッティング	姿勢や食べ物の位置の調整、摂食関連補助具の準備が必要である。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		2	食事の際に特別なセッティングをしても自分で食べることを行っていないが、直接的な介助があれば食べることを行っている。		2
食事の直接介助	食事の際に直接的な介助（食べさせる）が必要である（食事途中からの介助を含む）。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		1	直接的な介助をしても食べることを行っていない。（食べることを行っていない）		1

5-c. 食事形態

現在の主食形態（あてはまるものに○）

1. 米飯 2. 軟飯 3. 全粥 4. 7分粥一重湯 5. その他（ ）

現在の副食携帯（あてはまるものに○）

1. 常菜 2. 軟菜 3. きざみ 4. ミキサー 5. ムーンペースト
6. その他（ ）

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

6-a. 排泄の動作

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	排泄の後始末を行っている。		5
排泄の後始末	排泄の後に種々の後始末をすること。 ※排泄後に拭く、水洗を流す、汚染した便器や周囲を拭く、ポータブルトイレの処理、尿器の処理等を含む。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		4	排泄の後始末は行っていないが、スポン・パンツの上げ下ろしは行っている。		4
スポンやパンツの上げ下ろし	排泄の際、スポン・パンツ等の上げ下ろしを自分ですること。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		3	スポン・パンツの上げ下ろしは行っていないが、洋式便器への移乗は行っている。		3
洋式便器への移乗	洋式便器への移乗と、洋式便器からの移乗。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
※トイレ内の移動の際、姿勢の保持を自分で行っていない場合は「行っていない」としてください。 ※移乗ができず、洋式トイレを利用していない場合も「行っていない」としてください。		2	洋式トイレの移乗が自分で行えないため、介助が必要、または普段から床上で排泄を行っている。		2
床上での排泄	医療的な身体管理のため、人工肛門・尿カテーテル・おむつ等の使用	使用していない	↑		
		使用している	↓		
		1	尿閉（膀胱瘻を含む）や医療的な身体管理のために膀胱等へのカテーテルなどを使用している。		1

6-b. 補助具・器具の使用状況（使用しているものに○）

- 1. ポータブルトイレの使用
- 2. 尿カテーテルの利用
- 3. 人工肛門の使用
- 4. おむつの使用

6-c. 尿意を意識することができるか（あてはまるものに○）

- 1. できる
- 2. できない

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい



7-a. 入浴動作

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	安定した浴槽の出入りと洗身を行っている。		5
安定した浴槽の出入りと洗身	一人で危なげなく浴槽に入り、身体を洗う等の浴室動作も安定して（特に不安なく）普通に入浴を行っている。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	安定した浴槽の出入りと洗身は行っていないが、第三者の援助なしで入浴を行っている。		4
第三者の援助なしで入浴	日頃の入浴や清潔の状態や皮膚の洗い残し等より、入浴の不十分さが認識されている。しかし、浴室内で第三者の援助は行われていない（自分でシャワー浴のみを行う場合を含む）	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		3	第三者の援助なしで入浴することは行っていないが、一般浴室内の座位保持は行っている。その他、入浴に必要なさまざまな介助がなされている。		3
浴室内での座位保持	浴室内での座位保持は安定しているが、見守り・指示・手を添える・洗身の不十分などところを手伝う程度の第三者の援助で入浴できている。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		2	浴室内での座位保持を行っておらず、一般浴での入浴を行っていないが、入浴（特浴など）は行っている。		2
入浴の実施	浴室内での座位保持が不安定（またはできない）で、入浴時には第三者の全面的な援助が必要である。特殊浴（機械浴）、車椅子浴、ネットを用いたリフト浴を含む。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		1	入浴は行っていない。		1

7-b. 入浴手段（あてはまるものに○）

1. 一般浴 2. 介助浴 3. 座っての機械浴 4. 臥位での機械浴（特殊浴）

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい



8-a. 整容～口腔ケア

		ステージ	状態	状態のイメージ	
口腔ケア	口唇の乾燥を防いだり、義歯の手入れなど、口腔ケアについては自分でやっている。	5	義歯の手入れなどの口腔ケアを自分でやっている。		5
		↑	行っている		
		↓	行っていない		
歯みがき	歯磨きを普段から自分でセッティングして行っている。	4	義歯の手入れなどの口腔ケアは自分では行っていないが、歯みがきは自分でセッティングして行っている。		4
		↑	行っている		
		↓	行っていない		
歯みがきのセッティング	普段から、歯磨きのセッティングをすれば、自分で歯磨きを行う。	3	自分でセッティングして歯を磨くことは行っていないが、セッティングをすれば、自分で歯みがきを行っている。		3
		↑	行っている		
		↓	行っていない		
うがい	「うがい」だけであれば自分でやっている。	2	歯みがきのセッティングをしても自分では歯みがきを行っていないが、「うがい」は自分でやっている。		2
		↑	行っている		
		↓	行っていない		
		1	「うがい」を自分で行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

8-b. 整容～整容



		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	爪を切ることを自分でやっている。		5
爪きり	手足のつめを切ることを普段から自分でやっている。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		4	爪を切ることは自分で行っていないが、髭剃りやスキンケア、整髪は自分でやっている。		4
髭そり・スキンケア・整髪	髭剃り（男性）やスキンケア（女性）、髪のを整えることを普段から自分でやっている。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		3	髭剃りやスキンケア、整髪は自分で行っていないが、洗顔は自分でやっている。		3
洗顔	洗顔（洗面台で、あるいは濡れタオルで顔を拭くこと）を普段から自分でやっている。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		2	洗顔は自分で行っていないが、手洗いは自分でやっている。		2
手洗い	手洗いを普段から自分でやっている。	行っている	↑		1
		行っていない	↓		
		1	手洗いを自分で行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

8-c. 整容～衣服の着脱



		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	衣服を畳んだり整理することは自分でやっている。		5
衣類の 整え	衣服を畳んだり整理することは自分でやっている。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	衣服を畳んだり整理することを自分で行っていないが、ズボンやパンツの着脱は自分でやっている。		4
ズボンやパ ンツの着脱	ズボン・パンツ等の着脱は自分でやっている。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		3	ズボンやパンツの着脱を自分で行っていないが、更衣の際のボタンのかけはずしは自分でやっている。		3
ボタンのか けはずし	更衣の際にボタンのかけはずしは自分でやっている。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		2	更衣の際のボタンのかけはずしを自分で行っていないが、上衣の片袖を通すことは自分でやっている。		2
上衣の片袖 を通す	上衣の片袖を通すことは自分でやっている。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		1	上衣の片袖を通すことを自分で行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

9-a. 社会参加～余暇



		ステージ	状態	状態のイメージ	
旅行	旅行に行く（家および施設を1日以上離れる、施設から家への一時帰宅を除く）。	している	↑		5
		していない	↓		
個人の趣味活動の実施	個人による趣味活動の実施。	している	↑		4
		していない	↓		
レクリエーション	集団での体操などの集団レクリエーションへの参加。	している	↑		3
		していない	↓		
テレビ	施設内や家でテレビを見る。	している	↑		2
		していない	↓		
		1	テレビを見たり、ラジオを聴いていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第2回目調査（調査対象「利用者」の退所時の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

9-b. 社会参加～交流



		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	情報伝達手段を用いて交流を行っている。		5
通信機器を用いての交流	電話を掛けた（e-mail、手紙等含む。相手から掛かってくるのは除く）。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	通信機器を用いて自ら連絡を取ることは行っていないが、援助があつての外出はしている。		4
外出	施設外に外出した（親族・知人を訪ねる目的で）。	している	↑		4
		していない	↓		
		3	外出はしていないが、親族・友人の訪問を受け会話している。		3
友人との会話	職員や家族以外の友人・知人と会話した。	している	↑		3
		していない	↓		
		2	近所づきあいはしていないが、施設利用者や家族と会話はしている。		2
身近な人との会話	施設職員や家族などと会話した。	している	↑		2
		していない	↓		
		1	会話がな、していない、できない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

第3回目調査

○調査対象「利用者」の老健施設退所後1週間以内の状況をご記入

ください

○居宅側の介護支援専門員がご記入ください

◆利用者様の調査時点の要介護度等についてご記入ください。

本調査の記入日	平成 年 月 日
利用者の状況を調査した日（もしくはその期間）	平成 年 月 日 ～平成 年 月 日
要介護度	
障害自立度	
認知症自立度	
備考	

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

2. 基本動作

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	両足での立位の保持を行っている。		5
立位の保持	つかまらずに一定の時間立位を保つこと。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	立位の保持は行っていないが、座位での乗り移りを行っている。		4
座位での乗り移り	車椅子などからベッドへ移動する時のように、ある面に座った状態から、同等あるいは異なる高さの他の座面へと移動すること。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		3	座位での乗り移りは行っていないが、座位(端座位)の保持を行っている。		3
座位(端座位)の保持	ベッド等に、背もたれもなく“つかまらない”で、安定して座っていること。(端座位)	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		2	座位(端座位)の保持は行っていないが、寝返りを行っている。		2
寝返り	寝返りをすること(つかまらず・つかまらずに関わらず)。	行っている	↑		1
		行っていない	↓		
		1	寝返りは行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

3-a. 歩行・移動

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	公共交通機関等を利用した外出を行っている。		5
外出状況	公共交通機関（バス・JR・飛行機等）を利用して外出する（杖等の補助具の使用の有無は問わない）。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		4	公共交通機関等を利用した外出は行っていないが、手すりに頼らないで安定した階段の昇り降りを行っている。		
昇り降り	階段を5段以上“手すりに頼らず昇り降りする”こと。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		3	手すりに頼らない安定した階段の昇り降りは行っていないが、平らな場所での安定した歩行を行っている。		
安定した歩行	安定した歩行をすること（杖と装具の双方を用いてもかまわない）。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		2	安定した歩行は行っていないが、施設内の移動を行っている。		
施設内での移動	施設内で居室から別の部屋へと移動すること（車椅子など移動手段は問わない）。	行っている	↑		1
		行っていない	↓		
		1	施設内の移動を行っていない。		

3-b. 移動手段（下記のうち、利用あるものに○）

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. T字杖の利用 | 5. 車椅子の利用 |
| 2. 装具（短下肢装具等） | 6. リクライニング式車椅子の利用 |
| 3. 歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用 | 7. 介助者や付添いの必要 |
| 4. しがみつき歩行器の利用（サークル歩行） | |

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

4-a. 認知機能～オリエンテーション（見当識）



		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	年月日がわかる。		5
年月日	年月日がわかるか。 (±1日の誤差)	わかる	↑		4
		わからない	↓		
		4	年月日はわからないが、現在いる場所の種類はわかる。		3
場所の名称	現在いる場所の、種類がわかるか。	わかる	↑		
		わからない	↓		
		3	場所の名称や種類はわからないが、その場にいる人が誰かわかる。		2
他者に関する見当識	その場にいる人がだれかわかるか（例えば家族か、職員か、が判れば可）。	わかる	↑		
		わからない	↓		
		2	その場にいる人が誰かわからないが、自分の名前はわかる。		1
自分の名前	自分の名前がわかるか。	わかる	↑		
		わからない	↓		
		1	自分の名前がわからない。		

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

4-b. 認知機能～コミュニケーション

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	複雑な人間関係を保っている。		5
複雑な人間関係の保持	様々な状況で、他者を理解し、他者が不快にならないように感情や衝動を抑え、常識に基づいて人間関係を保とうとすること。 (例) 普通の人間関係。	保っている	↑		
		保っていない	↓		
		4	複雑な人間関係は保っていないが、書き言葉は理解している。		4
書き言葉の受容	書き言葉のメッセージを読み取り、理解している。	理解している	↑		
		理解していない	↓		
		3	書き言葉は理解していないが日常会話は行っている。		3
日常会話	1対1で“違和感のない（適切でつじつまのあった）”対話や意見交換をすること。 (例) 日常の当たり前の会話：友人関係、日常生活、季節等。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		2	日常会話は行っていないが、話し言葉は理解している。		2
話し言葉の理解	スタッフや家族の話し言葉（音声言語）を理解すること。 (例) 例示の理解。	理解している	↑		
		理解していない	↓		
		1	話し言葉の理解はできない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

4-c. 認知機能～精神活動

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	時間管理ができる		5
時間管理	現在の時刻がわかり、かつ一時間後に何を行なうか理解し、普段から自分で管理している。	できる	↑		
		できない	↓		
		4	時間管理はできないが、簡単な算術計算はできる。		4
簡単な算術計算	7+8、6+5などの一桁同士の単純な加算ができるか。※おおむね7割程度正解すれば、できると判断する。	できる	↑		
		できない	↓		
		3	簡単な算術計算はできないが、記憶の再生はできる。		3
長期記憶	過去の自伝的な記憶について正しく、再生することができるか。	できる	↑		
		できない	↓		
		2	記憶の再生はできないが、意識混濁はない。		2
意識状態	調査前24時間以内の起きている時間帯に意識の混濁があったか。	なかった	↑		
		あった	↓		
		1	意識の混濁があった。		1

4-d. 周辺症状（症状がみられる場合には○）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 世話を拒否する | 7. 食べ過ぎる |
| 2. 不適切に泣いたり笑ったりする | 8. タンスの中身を全部出す |
| 3. 興奮して手足を動かす | 9. 日中屋外や屋内をうろつきまわる |
| 4. 理由なく金切り声をあげる | 10. 昼間、寝てばかりいる |
| 5. 衣服や器物を破壊する | 11. 同じことを何度も聞く |
| 6. 食物を投げる | 12. 尿失禁する |

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

5-a. 食事～嚥下機能

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	肉などを含む普通の食事を、噛んで食べることを行っている。		5
咬断 (固いもの)	肉などを含む普通の食事を噛んで食べることを。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	肉などを含む普通の食事を噛んで食べることは行っていないが、ストローなどでむせずに飲むことは行っている。		4
吸引	ストロー・吸い飲み等を使用して、水分・流動物をむせずに口腔内に吸引すること。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		3	むせずに吸引することは行っていないが、固形物の嚥下は行っている。		3
嚥下 (固形物)	噛んだ（口内でつぶした）あるいは柔らかくした食べ物（普通食、粥食、軟食等）を、ノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		2	固形物の嚥下は行っていないが、嚥下食の嚥下は行っている。		2
嚥下 (嚥下食)	嚥下をしやすいように処理した食べ物（ペースト食やゼリー食）をノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと。	行っている	↑		1
		行っていない	↓		
		1	嚥下食の嚥下を行っていない。（食べ物の嚥下を行っていない）		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

5-b. 食事～食事動作及び食事介助



		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行っている。		5
食べること	提供された食べ物を、箸やフォーク等を使って、食べこぼしなく上手に食べることを。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	箸やフォークを使って上手に食べることは行っていないが、食べこぼししながらも、何とか自分で食べることを行っている。		4
食べこぼし	提供された食べ物を、“食べこぼしはあるが”、何とか自分で食べることを。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		3	自分で食べることを行っていないが、食事の際に特別なセッティングをすれば自分で食べることを行っている。		3
食事の際の特別なセッティング	姿勢や食べ物の位置の調整、摂食関連補助具の準備が必要である。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		2	食事の際に特別なセッティングをしても自分で食べることを行っていないが、直接的な介助があれば食べることを行っている。		2
食事の直接介助	食事の際に直接的な介助（食べさせる）が必要である（食事途中からの介助を含む）。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		1	直接的な介助をしても食べることを行っていない。（食べることを行っていない）		1

5-c. 食事形態

現在の主食形態（あてはまるものに○）

1. 米飯 2. 軟飯 3. 全粥 4. 7分粥一重湯 5. その他（ ）

現在の副食携帯（あてはまるものに○）

1. 常菜 2. 軟菜 3. きざみ 4. ミキサー 5. ムーンペースト
6. その他（ ）

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

6-a. 排泄の動作

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	排泄の後始末を行っている。		5
排泄の後始末	排泄の後に種々の後始末をすること。 ※排泄後に拭く、水洗を流す、汚染した便器や周囲を拭く、ポータブルトイレの処理、尿器の処理等を含む。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		4	排泄の後始末は行っていないが、スポン・パンツの上げ下ろしは行っている。		4
スポンやパンツの上げ下ろし	排泄の際、スポン・パンツ等の上げ下ろしを自分ですること。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		3	スポン・パンツの上げ下ろしは行っていないが、洋式便器への移乗は行っている。		3
洋式便器への移乗	洋式便器への移乗と、洋式便器からの移乗。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
※トイレ内の移動の際、姿勢の保持を自分で行っていない場合は「行っていない」としてください。 ※移乗ができず、洋式トイレを利用していない場合も「行っていない」としてください。		2	洋式トイレの移乗が自分で行えないため、介助が必要、または普段から床上で排泄を行っている。		2
床上での排泄	医療的な身体管理のため、人工肛門・尿カテーテル・おむつ等の使用	使用していない	↑		
		使用している	↓		
		1	尿閉（膀胱瘻を含む）や医療的な身体管理のために膀胱等へのカテーテルなどを使用している。		1

6-b. 補助具・器具の使用状況（使用しているものに○）

- | | |
|----------------|------------|
| 1. ポータブルトイレの使用 | 3. 人工肛門の使用 |
| 2. 尿カテーテルの利用 | 4. おむつの使用 |

6-c. 尿意を意識することができるか（あてはまるものに○）

- | | |
|--------|---------|
| 1. できる | 2. できない |
|--------|---------|

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

7-a. 入浴動作

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	安定した浴槽の出入りと洗身を行っている。		5
安定した浴槽の出入りと洗身	一人で危なげなく浴槽に入り、身体を洗う等の浴室内動作も安定して（特に不安なく）普通に入浴を行っている。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		4	安定した浴槽の出入りと洗身は行っていないが、第三者の援助なしで入浴を行っている。		4
第三者の援助なしで入浴	日頃の入浴や清潔の状態や皮膚の洗い残し等より、入浴の不十分さが認識されている。しかし、浴室内で第三者の援助は行われていない（自分でシャワー浴のみを行う場合を含む）	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		3	第三者の援助なしで入浴することは行っていないが、一般浴室での座位保持は行っている。その他、入浴に必要なさまざまな介助がなされている。		3
浴室での座位保持	浴室での座位保持は安定しているが、見守り・指示・手を添える・洗身の不十分などを手伝う程度の第三者の援助で入浴できている。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		2	浴室での座位保持を行っておらず、一般浴での入浴を行っていないが、入浴（特浴など）は行っている。		2
入浴の実施	浴室での座位保持が不安定（またはできない）で、入浴時には第三者の全面的な援助が必要である。特殊浴（機械浴）、車椅子浴、ネットを用いたリフト浴を含む。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		1	入浴は行っていない。		1

7-b. 入浴手段（あてはまるものに○）

1. 一般浴 2. 介助浴 3. 座っての機械浴 4. 臥位での機械浴（特殊浴）

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

8-a. 整容～口腔ケア

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	義歯の手入れなどの口腔ケアを自分でやっている。		5
口腔ケア	口唇の乾燥を防いだり、義歯の手入れなど、口腔ケアについては自分でやっている。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	義歯の手入れなどの口腔ケアは自分では行っていないが、歯みがきは自分でセッティングして行っている。		4
歯みがき	歯磨きを普段から自分でセッティングして行っている。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		3	自分でセッティングして歯を磨くことは行っていないが、セッティングをすれば、自分で歯みがきを行っている。		3
歯みがきのセッティング	普段から、歯磨きのセッティングをすれば、自分で歯磨きを行う。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		2	歯みがきのセッティングをしても自分では歯みがきを行っていないが、「うがい」は自分でやっている。		2
うがい	「うがい」だけであれば自分でやっている。	行っている	↑		1
		行っていない	↓		
		1	「うがい」を自分で行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

8-b. 整容～整容



		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	爪を切ることを自分でやっている。		5
爪きり	手足のつめを切ることを普段から自分でやっている。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	爪を切ることは自分で行っていないが、髭剃りやスキンケア、整髪は自分でやっている。		4
髭そり・スキンケア・整髪	髭剃り（男性）やスキンケア（女性）、髪の毛を整えることを普段から自分でやっている。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		3	髭剃りやスキンケア、整髪は自分で行っていないが、洗顔は自分でやっている。		3
洗顔	洗顔（洗面台で、あるいは濡れタオルで顔を拭くこと）を普段から自分でやっている。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		2	洗顔は自分で行っていないが、手洗いは自分でやっている。		2
手洗い	手洗いを普段から自分でやっている。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		1	手洗いを自分で行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

8-c. 整容～衣服の着脱



		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	衣服を畳んだり整理することは自分でやっている。		5
衣類の 整え	衣服を畳んだり整理することは自分でやっている。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	衣服を畳んだり整理することを自分で行っていないが、スポンやパンツの着脱は自分でやっている。		4
スポンやパ ンツの着脱	スポン・パンツ等の着脱は自分でやっている。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		3	スポンやパンツの着脱を自分で行っていないが、更衣の際のボタンのかけはずしは自分でやっている。		3
ボタンのか けはずし	更衣の際にボタンのかけはずしは自分でやっている。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		2	更衣の際のボタンのかけはずしを自分で行っていないが、上衣の片袖を通すことは自分でやっている。		2
上衣の片袖 を通す	上衣の片袖を通すことは自分でやっている。	行っている	↑		1
		行っていない	↓		
		1	上衣の片袖を通すことを自分で行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

9-a. 社会参加～余暇

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	施設や家を1日以上離れる外出または旅行をしている。		5
旅行	旅行に行く（家および施設を1日以上離れる、施設から家への一時帰宅を除く）。	している	↑		4
		していない	↓		
		4	旅行はしていないが、個人による趣味活動はしている。		3
個人の趣味活動の実施	個人による趣味活動の実施。	している	↑		
		していない	↓		
		3	屋外で行うような個人的趣味活動はしていないが、屋内でする程度のことはしている。		2
レクリエーション	集団での体操などの集団レクリエーションへの参加。	している	↑		
		していない	↓		
		2	集団レクリエーションへは参加していないが、一人でテレビを楽しんでいる。		1
テレビ	施設内や家でテレビを見る。	している	↑		
		していない	↓		
		1	テレビを見たり、ラジオを聴いていない。		

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

9-b. 社会参加～交流

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	情報伝達手段を用いて交流を行っている。		5
通信機器を用いての交流	電話を掛けた（e-mail、手紙等含む。相手から掛かってくるのは除く）。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	通信機器を用いて自ら連絡を取ることは行っていないが、援助があつての外出はしている。		4
外出	施設外に外出した（親族・知人を訪ねる目的で）。	している	↑		4
		していない	↓		
		3	外出はしていないが、親族・友人の訪問を受け会話している。		3
友人との会話	職員や家族以外の友人・知人と会話した。	している	↑		3
		していない	↓		
		2	近所づきあいはしていないが、施設利用者や家族と会話はしている。		2
身近な人との会話	施設職員や家族などと会話した。	している	↑		2
		していない	↓		
		1	会話がな、していない、できない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第3回目調査（調査対象「利用者」の退所後1週間以内の状況調査）

ご利用者の日常関連動作（IADL）調査

●ご利用者様の状態に最も近いものを一つ選び、その番号を太枠内にご記入ください ↓

食事機能	5. 食事の準備を自分でしている 4. 食事の準備を手伝っている 3. 後片付けを自分でしている 2. 後片付けを手伝っている 1. 食事の準備や後片付けは行っていない	
生活機能	3. 買物は自分でやっている 2. 買物は家族と一緒にやっている 1. 買物は自分で行っていない	
	3. 掃除・洗濯を自分でしている 2. 掃除・洗濯を手伝っている 1. 掃除・洗濯を自分で行っていない	
	3. ゴミ出しは自分でやっている 2. ゴミの分別は自分でやっている 1. ゴミの分別は自分で行っていない	
自己管理	3. お金・通帳の管理は自分でやっている 2. お小遣いは自分で管理している 1. お金の管理は自分でしていない	
	3. 電話や来客は自分で対応している 2. 電話や来客は家族がいないときは対応 1. 電話や来客は自分で対応していない	
	3. 郵便・書類は自分で管理している 2. 郵便・書類の一部は自分で管理している 1. 郵便・書類は自分で管理していない	
	3. 火の元は自分で管理している 2. 火の元は一部自分で管理している 1. 火の元は自分で管理していない	
社会機能	3. 一人で交通手段を使って外出している 2. 介助者と交通手段を使って外出している 1. 交通手段は利用していない	
	3. 一人で散歩などに出掛けている 2. 介助者と一緒に散歩などに出掛けている 1. 散歩などには出掛けない	

第4回目調査

○調査対象「利用者」の老健施設退所1か月後の状況をご記入ください

○居宅側の介護支援専門員をご記入ください

◆利用者様の調査時点の要介護度等についてご記入ください。

本調査の記入日	平成 年 月 日
利用者の状況を調査した日（もしくはその期間）	平成 年 月 日 ～平成 年 月 日
要介護度	
障害自立度	
認知症自立度	
備考	

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

2. 基本動作

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	両足での立位の保持を行っている。		5
立位の保持	つかまらずに一定の時間立位を保つこと。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	立位の保持は行っていないが、座位での乗り移りは行っている。		4
座位での乗り移り	車椅子などからベッドへ移動する時のように、ある面に座った状態から、同等あるいは異なる高さの他の座面へと移動すること。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		3	座位での乗り移りは行っていないが、座位(端座位)の保持は行っている。		3
座位(端座位)の保持	ベッド等に、背もたれもなく“つかまらない”で、安定して座っていること。(端座位)	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		2	座位(端座位)の保持は行っていないが、寝返りは行っている。		2
寝返り	寝返りをすること(つかまらず・つかまらないに関わらず)。	行っている	↑		1
		行っていない	↓		
		1	寝返りは行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

3-a. 歩行・移動

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	公共交通機関等を利用した外出を行っている。		5
外出状況	公共交通機関（バス・JR・飛行機等）を利用して外出する（杖等の補助具の使用の有無は問わない）。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		4	公共交通機関等を利用した外出は行っていないが、手すりに頼らないで安定した階段の昇り降りを行っている。		3
昇り降り	階段を5段以上“手すりに頼らず昇り降りする”こと。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		3	手すりに頼らない安定した階段の昇り降りは行っていないが、平らな場所での安定した歩行を行っている。		2
安定した歩行	安定した歩行をすること（杖と装具の双方を用いてもかまわない）。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		2	安定した歩行は行っていないが、施設内の移動は行っている。		1
施設内での移動	施設内で居室から別の部屋へと移動すること（車椅子など移動手段は問わない）。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		1	施設内の移動を行っていない。		

3-b. 移動手段（下記のうち、利用あるものに○）

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. T字杖の利用 | 5. 車椅子の利用 |
| 2. 装具（短下肢装具等） | 6. リクライニング式車椅子の利用 |
| 3. 歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用 | 7. 介助者や付添いの必要 |
| 4. しがみつき歩行器の利用（サークル歩行） | |

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

4-a. 認知機能～オリエンテーション（見当識）

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	年月日がわかる。		5
年月日	年月日がわかるか。 (±1日の誤差)	わかる	↑		5
		わからない	↓		
		4	年月日はわからないが、現在いる場所の種類はわかる。		4
場所の名称	現在いる場所の、種類がわかるか。	わかる	↑		4
		わからない	↓		
		3	場所の名称や種類はわからないが、その場にいる人が誰かわかる。		3
他者に関する見当識	その場にいる人がだれかわかるか（例えば家族か、職員か、が判れば可）。	わかる	↑		3
		わからない	↓		
		2	その場にいる人が誰だかわからないが、自分の名前はわかる。		2
自分の名前	自分の名前がわかるか。	わかる	↑		2
		わからない	↓		
		1	自分の名前がわからない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

4-b. 認知機能～コミュニケーション

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	複雑な人間関係を保っている。		5
複雑な人間関係の保持	様々な状況で、他者を理解し、他者が不快にならないように感情や衝動を抑え、常識に基づいて人間関係を保とうとすること。 (例) 普通の人間関係。	保っている	↑		
		保っていない	↓		
		4	複雑な人間関係は保っていないが、書き言葉は理解している。		4
書き言葉の受容	書き言葉のメッセージを読み取り、理解している。	理解している	↑		
		理解していない	↓		
		3	書き言葉は理解していないが日常会話は行っている。		3
日常会話	1対1で“違和感のない（適切でつつまのあった）”対話や意見交換をすること。 (例) 日常の当たり前の会話；友人関係、日常生活、季節等。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		2	日常会話は行っていないが、話し言葉は理解している。		2
話し言葉の理解	スタッフや家族の話し言葉（音声言語）を理解すること。 (例) 例示の理解。	理解している	↑		
		理解していない	↓		
		1	話し言葉の理解はできない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

4-c. 認知機能～精神活動

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	時間管理ができる		5
時間管理	現在の時刻がわかり、かつ一時間後に何を行なうか理解し、普段から自分で管理している。	できる	↑		4
		できない	↓		
		4	時間管理はできないが、簡単な算術計算はできる。		
簡単な算術計算	7+8、6+5などの一桁同士の単純な加算ができるか。※おおむね7割程度正解すれば、できると判断する。	できる	↑		3
		できない	↓		
		3	簡単な算術計算はできないが、記憶の再生はできる。		
長期記憶	過去の自伝的な記憶について正しく、再生することができるか。	できる	↑		2
		できない	↓		
		2	記憶の再生はできないが、意識混濁はない。		
意識状態	調査前24時間以内の起きていた時間帯に意識の混濁があったか。	なかった	↑		1
		あった	↓		
		1	意識の混濁があった。		

4-d. 周辺症状（症状がみられる場合には○）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 世話を拒否する | 7. 食べ過ぎる |
| 2. 不適切に泣いたり笑ったりする | 8. タンスの中身を全部出す |
| 3. 興奮して手足を動かす | 9. 日中屋外や屋内をうろつきまわる |
| 4. 理由なく金切り声をあげる | 10. 昼間、寝てばかりいる |
| 5. 衣服や器物を破壊する | 11. 同じことを何度も聞く |
| 6. 食物を投げる | 12. 尿失禁する |

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

5-a. 食事～嚥下機能

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	肉などを含む普通の食事を、噛んで食べることを行っている。		5
咬断 (固いもの)	肉などを含む普通の食事を噛んで食べること。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
吸引	ストロー・吸い飲み等を使用して、水分・流動物をむせずに口腔内に吸引すること。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
嚥下 (固形物)	噛んだ（口内でつぶした）あるいは柔らかくした食べ物（普通食、粥食、軟食等）を、ノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
嚥下 (嚥下食)	嚥下をしやすいように処理した食べ物（ペースト食やゼリー食）をノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと。	行っている	↑		1
		行っていない	↓		
		1	嚥下食の嚥下を行っていない。（食べ物の嚥下を行っていない）		

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

5-b. 食事～食事動作及び食事介助



		ステージ	状態	状態のイメージ	
食べること	提供された食べ物を、箸やフォーク等を使って、食べこぼしなく上手に食べることにしている。	5	箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行っている。		5
		↑	↑		
		4	箸やフォークを使って上手に食べることは行っていないが、食べこぼししながらも、何とか自分で食べることを行っている。		4
		↓	↓		
食べこぼし	提供された食べ物を、“食べこぼしはあるが”、何とか自分で食べることにしている。	3	自分で食べることを行っていないが、食事の際に特別なセッティングをすれば自分で食べることを行っている。		3
		↑	↑		
食事の際の特別なセッティング	姿勢や食べ物の位置の調整、摂食関連補助具の準備が必要である。	2	食事の際に特別なセッティングをしても自分で食べることを行っていないが、直接的な介助があれば食べることを行っている。		2
		↓	↓		
食事の直接介助	食事の際に直接的な介助（食べさせる）が必要である（食事途中からの介助を含む）。	1	直接的な介助をしても食べることを行っていない。（食べることを行っていない）		1
		↑	↑		

5-c. 食事形態

現在の主食形態（あてはまるものに○）

1. 米飯 2. 軟飯 3. 全粥 4. 7分粥一重湯 5. その他（ ）

現在の副食携帯（あてはまるものに○）

1. 常菜 2. 軟菜 3. きざみ 4. ミキサー 5. ムーンペースト
6. その他（ ）

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

6-a. 排泄の動作

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	排泄の後始末を行っている。		5
排泄の後始末	排泄の後に種々の後始末をすること。 ※排泄後に拭く、水洗を流す、汚染した便器や周囲を拭く、ポータブルトイレの処理、尿器の処理等を含む。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	排泄の後始末は行っていないが、スポン・パンツの上げ下ろしは行っている。		4
スポンやパンツの上げ下ろし	排泄の際、スポン・パンツ等の上げ下ろしを自分ですること。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		3	スポン・パンツの上げ下ろしは行っていないが、洋式便器への移乗は行っている。		3
洋式便器への移乗	洋式便器への移乗と、洋式便器からの移乗。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
※トイレ内の移動の際、姿勢の保持を自分で行っていない場合は「行っていない」としてください。 ※移乗ができず、洋式トイレを利用していない場合も「行っていない」としてください。		2	洋式トイレの移乗が自分で行えないため、介助が必要、または普段から床上で排泄を行っている。		2
床上での排泄	医療的な身体管理のため、人工肛門・尿カテーテル・おむつ等の使用	使用していない	↑		1
		使用している	↓		
		1	尿閉（膀胱瘻を含む）や医療的な身体管理のために膀胱等へのカテーテルなどを使用している。		1

6-b. 補助具・器具の使用状況（使用しているものに○）

- | | |
|----------------|------------|
| 1. ポータブルトイレの使用 | 3. 人工肛門の使用 |
| 2. 尿カテーテルの利用 | 4. おむつの使用 |

6-c. 尿意を意識することができるか（あてはまるものに○）

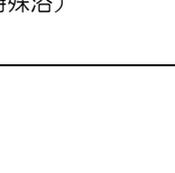
- | | |
|--------|---------|
| 1. できる | 2. できない |
|--------|---------|

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

7-a. 入浴動作

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	安定した浴槽の出入りと洗身を行っている。		5
安定した浴槽の出入りと洗身	一人で危なげなく浴槽に入り、身体を洗う等の浴室内動作も安定して（特に不安なく）普通に入浴を行っている。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	安定した浴槽の出入りと洗身は行っていないが、第三者の援助なしで入浴を行っている。		4
第三者の援助なしで入浴	日頃の入浴や清潔の状態や皮膚の洗い残し等より、入浴の不十分さが認識されている。しかし、浴室内で第三者の援助は行われていない（自分でシャワー浴のみを行う場合を含む）	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		3	第三者の援助なしで入浴することは行っていないが、一般浴室での座位保持は行っている。その他、入浴に必要なさまざまな介助がなされている。		3
浴室内での座位保持	浴室内での座位保持は安定しているが、見守り・指示・手を添える・洗身の不十分などところを手伝う程度の第三者の援助で入浴できている。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		2	浴室内での座位保持を行っておらず、一般浴での入浴を行っていないが、入浴（特浴など）は行っている。		2
入浴の実施	浴室内での座位保持が不安定（またはできない）で、入浴時には第三者の全面的な援助が必要である。特殊浴（機械浴）、車椅子浴、ネットを用いたリフト浴を含む。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		1	入浴は行っていない。		1

7-b. 入浴手段（あてはまるものに○）

1. 一般浴 2. 介助浴 3. 座っての機械浴 4. 臥位での機械浴（特殊浴）

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

--

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、居宅の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

8-a. 整容～口腔ケア

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	義歯の手入れなどの口腔ケアを自分でやっている。		5
口腔ケア	口唇の乾燥を防いだり、義歯の手入れなど、口腔ケアについては自分でやっている。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		4	義歯の手入れなどの口腔ケアは自分では行っていないが、歯みがきは自分でセッティングしてやっている。		4
歯みがき	歯磨きを普段から自分でセッティングしてやっている。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		3	自分でセッティングして歯を磨くことは行っていないが、セッティングをすれば、自分で歯みがきを行っている。		3
歯みがきのセッティング	普段から、歯磨きのセッティングをすれば、自分で歯磨きを行う。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		2	歯みがきのセッティングをしても自分では歯みがきを行っていないが、「うがい」は自分でやっている。		2
うがい	「うがい」だけであれば自分でやっている。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		1	「うがい」を自分で行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

8-b. 整容～整容

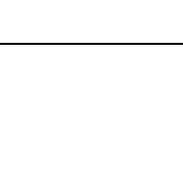
		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	爪を切ることを自分でやっている。		5
爪きり	手足のつめを切ることを普段から自分でやっている。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		4	爪を切ることは自分で行っていないが、髭剃りやスキンケア、整髪は自分でやっている。		4
髭そり・スキンケア・整髪	髭剃り（男性）やスキンケア（女性）、髪のを整えることを普段から自分でやっている。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		3	髭剃りやスキンケア、整髪は自分で行っていないが、洗顔は自分でやっている。		3
洗顔	洗顔（洗面台で、あるいは濡れタオルで顔を拭くことを）を普段から自分でやっている。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		2	洗顔は自分で行っていないが、手洗いは自分でやっている。		2
手洗い	手洗いを普段から自分でやっている。	行っている	↑		
		行っていない	↓		
		1	手洗いを自分で行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

8-c. 整容～衣服の着脱

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	衣服を畳んだり整理することは自分でやっている。		5
衣類の 整え	衣服を畳んだり整理することは自分でやっている。	行っている	↑		5
		行っていない	↓		
		4	衣服を畳んだり整理することを自分で行っていないが、ズボンやパンツの着脱は自分でやっている。		4
ズボンやパ ンツの着脱	ズボン・パンツ等の着脱は自分でやっている。	行っている	↑		3
		行っていない	↓		
		3	ズボンやパンツの着脱を自分で行っていないが、更衣の際のボタンのかけはずしは自分でやっている。		3
ボタンのか けはずし	更衣の際にボタンのかけはずしは自分でやっている。	行っている	↑		2
		行っていない	↓		
		2	更衣の際のボタンのかけはずしを自分で行っていないが、上衣の片袖を通すことは自分でやっている。		2
上衣の片袖 を通す	上衣の片袖を通すことは自分でやっている。	行っている	↑		1
		行っていない	↓		
		1	上衣の片袖を通すことを自分で行っていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

9-a. 社会参加～余暇

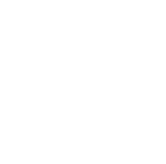
		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	施設や家を1日以上離れる外出または旅行をしている。		5
旅行	旅行に行く（家および施設を1日以上離れる、施設から家への一時帰宅を除く）。	している	↑		
		していない	↓		
		4	旅行はしていないが、個人による趣味活動はしている。		4
個人の趣味活動の実施	個人による趣味活動の実施。	している	↑		
		していない	↓		
		3	屋外で行うような個人的趣味活動はしていないが、屋内でする程度のことはしている。		3
レクリエーション	集団での体操などの集団レクリエーションへの参加。	している	↑		
		していない	↓		
		2	集団レクリエーションへは参加していないが、一人でテレビを楽しんでいる。		2
テレビ	施設内や家でテレビを見る。	している	↑		
		していない	↓		
		1	テレビを見たり、ラジオを聴いていない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）
この調査票のご記入は、施設の介護支援専門員にお願いいたします。

●右側の該当するステージ番号に○をつけて下さい

9-b. 社会参加～交流

		ステージ	状態	状態のイメージ	
		5	情報伝達手段を用いて交流を行っている。		5
通信機器を用いての交流	電話を掛けた（e-mail、手紙等含む。相手から掛かってくるのは除く）。	行っている	↑		4
		行っていない	↓		
		4	通信機器を用いて自ら連絡を取ることを行っていないが、援助があつての外出はしている。		4
外出	施設外に外出した（親族・知人を訪ねる目的で）。	している	↑		3
		していない	↓		
		3	外出はしていないが、親族・友人の訪問を受け会話している。		3
友人との会話	職員や家族以外の友人・知人と会話した。	している	↑		2
		していない	↓		
		2	近所づきあいはしていないが、施設利用者や家族と会話はしている。		2
身近な人との会話	施設職員や家族などと会話した。	している	↑		1
		していない	↓		
		1	会話がないう、していない、できない。		1

特記事項(器具・補助具の状況及びリスク 等)

※第4回目調査（調査対象「利用者」の退所1ヵ月後の状況調査）

ご利用者の日常関連動作（IADL）調査

●ご利用者様の状態に最も近いものを一つ選び、その番号を太枠内にご記入ください ↓

食事機能	5. 食事の準備を自分でしている 4. 食事の準備を手伝っている 3. 後片付けを自分でしている 2. 後片付けを手伝っている 1. 食事の準備や後片付けは行っていない	
生活機能	3. 買物は自分でやっている 2. 買物は家族と一緒にやっている 1. 買物は自分で行っていない	
	3. 掃除・洗濯を自分でしている 2. 掃除・洗濯を手伝っている 1. 掃除・洗濯を自分で行っていない	
	3. ゴミ出しは自分でやっている 2. ゴミの分別は自分でやっている 1. ゴミの分別は自分で行っていない	
自己管理	3. お金・通帳の管理は自分でやっている 2. お小遣いは自分で管理している 1. お金の管理は自分でしていない	
	3. 電話や来客は自分で対応している 2. 電話や来客は家族がいないときは対応 1. 電話や来客は自分で対応していない	
	3. 郵便・書類は自分で管理している 2. 郵便・書類の一部は自分で管理している 1. 郵便・書類は自分で管理していない	
	3. 火の元は自分で管理している 2. 火の元は一部自分で管理している 1. 火の元は自分で管理していない	
社会機能	3. 一人で交通手段を使って外出している 2. 介助者と交通手段を使って外出している 1. 交通手段は利用していない	
	3. 一人で散歩などに出掛けている 2. 介助者と一緒に散歩などに出掛けている 1. 散歩などには出掛けない	

[03-2]居宅介護支援専門員調査 施設退所利用者様ご担当「居宅介護支援専門員」様用 調査票

1. はじめに、ご記入いただいている方についてお伺いいたします。

(1)記入者名	
(2)性別	1. 男性 2. 女性
(3)介護支援専門員資格取得年	(西暦) _____年
(4)介護支援専門員としての業務経験年数	_____年
(5)現在の勤務先（事業所の種類）	1. 居宅介護支援事業所（特定事業所） 2. 居宅介護支援事業所（特定事業所以外） 3. 小規模多機能型施設、4. サービス付き高齢者向け住宅 5. その他
(6)11月分の担当件数（請求分）	_____件
(7)介護老人保健施設での勤務経験	1. あり 2. なし
(8)特別養護老人ホームでの勤務経験	1. あり 2. なし

2. 現在使用しているアセスメント手法についてお教えてください。（いずれか一つに○）

<ol style="list-style-type: none">1. インターライ方式（旧・MDS-HC）2. 成人・高齢者用アセスメントとケアプラン（訪問看護財団方式）3. 包括的自立支援プログラム（三団体方式）4. 居宅サービス計画（全社協方式）5. 生活7領域から考える自立支援アセスメント・ケアプラン（介護福祉士会アセスメント方式）6. ケアマネジメント実践記録様式（日本社会福祉士会方式）7. その他（その他の方式、独自の方法など）8. 上記の併用により実施

3. 介護老人保健施設入退所時の連携の状況についてお伺いします。

(1)介護老人保健施設入所時の情報提供について該当するものをお答えください。（複数回答可）

<ol style="list-style-type: none">1. 入所前に文書により情報提供している。2. 入所前に電話により情報提供している。3. 入所時に施設に行って情報提供している。4. 入所前に施設スタッフと利用者宅を訪問している。5. 入所前に、施設スタッフが参加したカンファレンスを行っている。6. その他7. 上記に該当なし

(2)介護老人保健施設退所時の情報提供について該当するものをお答えください。(複数回答可)

1. 退所前に文書で情報提供を受けている
2. 退所前に電話で情報提供を受けている。
3. 退所前に施設に行き、情報収集をしている。(提供を受けている)
4. 退所前に施設スタッフと利用者宅を訪問している。
5. 退所前に、施設でのカンファレンスに参加している。
6. その他 ()
7. 上記に該当なし

(3)介護老人保健施設退所時に、こういった専門職(介護支援専門員・支援相談員以外)からの情報提供を受けていますか?(複数回答可)

1. 医師	2. 看護職員	3. リハスタッフ(PT・OT・ST)	4. 介護職員
5. その他()	6. 専門職からの情報は受けていない。		

4. R4システム(新全老健版ケアマネジメント方式)について伺います。

(1)以前よりR4システム方式についてご存知でしたか(いずれか一つに○)

1. 知っていた	2. 知らなかった
----------	-----------

(2)今回在宅復帰にあたり、施設側から提示されたR4システムに基づく情報伝達について伺います。

①退所時に老健施設から提供された「情報提供書類」に対する評価(いずれか一つに○)

1. よい	2. どちらかといえばよい	3. どちらでもない	4. どちらかといえば悪い	5. 悪い
-------	---------------	------------	---------------	-------

上記で4. または5. を選ばれた方はその具体的な箇所及び理由等をご記入ください。

②退所時に老健施設から提供された「利用者の状態像」に対する評価(いずれか一つに○)

1. よい	2. どちらかといえばよい	3. どちらでもない	4. どちらかといえば悪い	5. 悪い
-------	---------------	------------	---------------	-------

上記で4. または5. を選ばれた方はその具体的な箇所及び理由等をご記入ください。

(3)在宅におけるICFステージングを参考にしたケアマネジメントについて伺います。

①ICFステージングを用いてアセスメントを行うことについての評価(いずれか一つに○)

1. よい	2. どちらかといえばよい	3. どちらでもない	4. どちらかといえば悪い	5. 悪い
-------	---------------	------------	---------------	-------

②ICFステージングによる「行っていることの評価」について(いずれか一つに○)

1. よい	2. どちらかといえばよい	3. どちらでもない	4. どちらかといえば悪い	5. 悪い
-------	---------------	------------	---------------	-------

③ICF ステージングによる「出来ることの評価」について（いずれか一つに○）

1. よい	2. どちらかといえばよい	3. どちらでもない	4. どちらかといえば悪い	5. 悪い
-------	---------------	------------	---------------	-------

④ICF ステージングを参考にした在宅ケアプランの立案（いずれか一つに○）

1. よい	2. どちらかといえばよい	3. どちらでもない	4. どちらかといえば悪い	5. 悪い
-------	---------------	------------	---------------	-------

(4) ICF ステージングの各調査項目についてどのように思いますか。（それぞれにつき、一つに○）

ICF ステージングの各調査項目	よい	どちらかといえばよい	どちらでもない	どちらかといえば悪い	悪い
1) 基本動作	1	2	3	4	5
2) 歩行移動	1	2	3	4	5
3) オリエンテーション	1	2	3	4	5
4) コミュニケーション	1	2	3	4	5
5) 精神活動	1	2	3	4	5
6) 嚥下機能	1	2	3	4	5
7) 食事動作	1	2	3	4	5
8) 排泄動作	1	2	3	4	5
9) 入浴動作	1	2	3	4	5
10) 口腔ケア	1	2	3	4	5
11) 整容	1	2	3	4	5
12) 衣服	1	2	3	4	5
13) 余暇	1	2	3	4	5
14) 交流	1	2	3	4	5
15) 周辺症状の 12 項目	1	2	3	4	5

(5)引き続き、ICF ステージングの調査項目について伺います。

①現在貴事業所で利用している帳票と比べ、項目に過不足はありましたか。（いずれか一つに○）

1. 多かった	2. 少なかった	3. その他
---------	----------	--------

上記を回答された理由や具体的項目についてご記入ください。

<hr/> <hr/>

②以前の調査で、ICF ステージングのレベルの判断基準が難しいという声がありましたが、実際利用してみて改善すべきと思われましたか。

1. 改善すべきと思った	2. 改善の必要はないと思った	3. その他
--------------	-----------------	--------

上記を回答された理由や具体的項目についてご記入ください。

<hr/> <hr/>

③従来の要介護度「手のかかり度」からICFステージングを使用することで、どのような変化がありましたか。下記から、あてはまるものすべてに○をお付け下さい。

1. 利用者の能力が把握しやすかった。
2. 利用者の能力の変化が把握しやすかった。
3. 利用者の生活状況が把握しやすかった。
4. 利用者の生活状況の変化が把握しやすかった。
5. 利用者の課題の整理に役立った。
6. 利用者の生活目標の設定に役立った。
7. 利用者・家族等からの情報の収集に役立だった。
8. 利用者や家族への説明に役立った。
9. サービス事業者への説明に役立った。
10. 介護支援専門員自身が自立支援の視点により立ちやすかった。
11. 自立支援に向けたサービス内容の選択に役立った。
12. 上記に該当なし。

5. 介護老人保健施設退所後の在宅生活におけるケアマネジメントについてお伺いします。

(1)介護老人保健施設退所後に在宅生活を継続していくために、ICFステージングの項目以外でどのようなことが重要であると思いますか？（自由記載）

<hr/> <hr/> <hr/>

(2)在宅生活を継続していくために、どのような情報が不足しがちだと思いますか？（自由記載）

<hr/> <hr/> <hr/>

6. 最後に、R4システムやICFステージングに関するご意見をお聞かせください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

御協力ありがとうございました。

◆調査に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部第二課 中島・山本・青山

〒105-0014 東京都港区芝 2-1-28 成旺ビル7階

TEL：03-3455-4165 FAX：03-3455-4172

ホームページ：<http://www.roken.or.jp/> メールアドレス：info@roken.or.jp

◆ご記入いただきました調査票は、一緒にお渡しいたしました封筒にてご返送ください。



公益社団法人全国老人保健施設協会

〒105-0014

東京都港区芝 2-1-28 成旺ビル 7階

TEL.03-3455-4165 FAX.03-3455-4172